

雲出川水系の流域及び河川の概要 (案)

平成 1 8 年 5 月 1 5 日

国 土 交 通 省 河 川 局

目 次

第1章 流域の自然条件	1
1-1 河川・流域の概要	1
1-2 地 形	2
1-3 地 質	3
1-4 気 候	4
第2章 流域及び河川の自然環境	5
2-1 自然環境	5
2-2 特徴的な河川景観や文化財等	25
2-3 河川にまつわる歴史・文化	29
2-4 市民活動	35
2-5 自然公園等の指定状況	35
第3章 流域の社会条件	37
3-1 人 口	37
3-2 土地利用	38
3-3 産 業 経 済	39
3-4 交 通	43
第4章 水害と治水事業の沿革	44
4-1 主な水害	44
4-2 治水事業の沿革	50
第5章 河川水の利用の実態	54
5-1 水利用の現状	54
5-2 渇水被害と渇水調整等の現状	57
第6章 河川流況と水質	59
6-1 河川流況	59
6-2 河川水質	60
第7章 河川空間の利用状況	63
7-1 河川敷の利用状況	63
7-2 河川の利用状況	65
第8章 河道特性	67
第9章 河川管理の現状	70
9-1 河川区域の現状	71
9-2 河川管理施設の現状	72
9-3 許可工作物の現状	73
9-4 水防体制	74
9-5 危機管理への取り組み	76
9-6 地域との連携	79

第 1 章 流域の自然状況

1－1 河川・流域の概要

雲出川は、三重県の中部に位置し、その源を三重県津市と奈良県宇陀郡御杖村の県境に位置する三峰山（標高 1,235m）に発し、八手俣川等の支川を合わせながら東流し、伊勢平野に出て波瀬川、中村川等を合わせて、その後、雲出古川を分派して、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 55km、流域面積 550km²の一級河川である。

雲出川流域は、三重県の県都である津市をはじめとする 2 市 1 村からなり、八手俣川、中村川、波瀬川等総計 40 の法河川を有している。

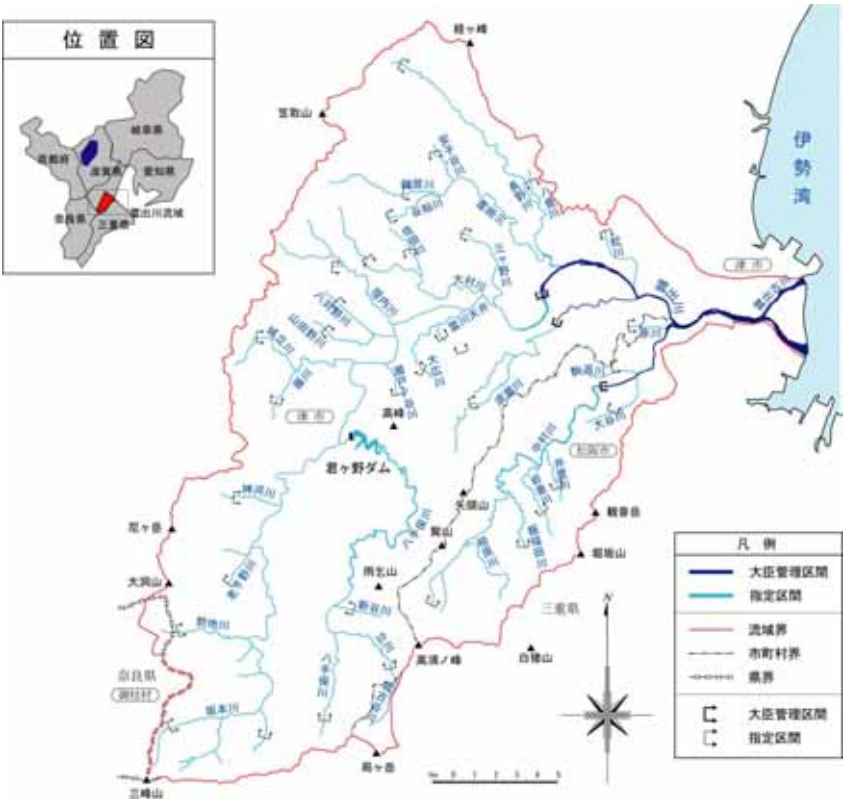


図 1-1 雲出川流域図

表 1-1 流域の諸元

項目	諸元	備考
幹川流路延長	55km	全国 90 位
流 域 面 積	550km ²	全国 86 位
流 域 市 町 村	2 市 1 村	(三重県) 津市、松阪市 (奈良県) 御杖村
流 域 内 人 口	約 8.7 万人	
支 川 数	40	

1-2 地形

雲出川流域は、山地により大部分が占められ、三峰山から北北東に横たわる^{ぬのびき}布引山脈と、東に横たわる^{たかみ}高見山地、更に^{つばねがたけ}局ヶ岳から北東に分布する山々によって挟まれた典型的な扇状形の地形である。

上流域は、高見山地に含まれた 600～1000m 級の山に囲まれ山地を蛇行し、平地は谷底平野としてわずかに見られるにすぎない。中流域に入ると、なだらかな丘陵地形となり、下流域は、伊勢平野の中を大きく蛇行しつつ流下する。中～下流域の蛇行した流れは浸食と堆積を繰り返し、河岸段丘や沖積平野を形成し、河岸段丘上には市街地が広がっている。特に左岸の旧^{ひさい}久居市街地全体をのせる段丘はよく発達している。

河口部は、雲出古川が本川から分流し、規模の大きなデルタ地帯が広がり、津市香良州町沿岸部には砂浜も見られる。

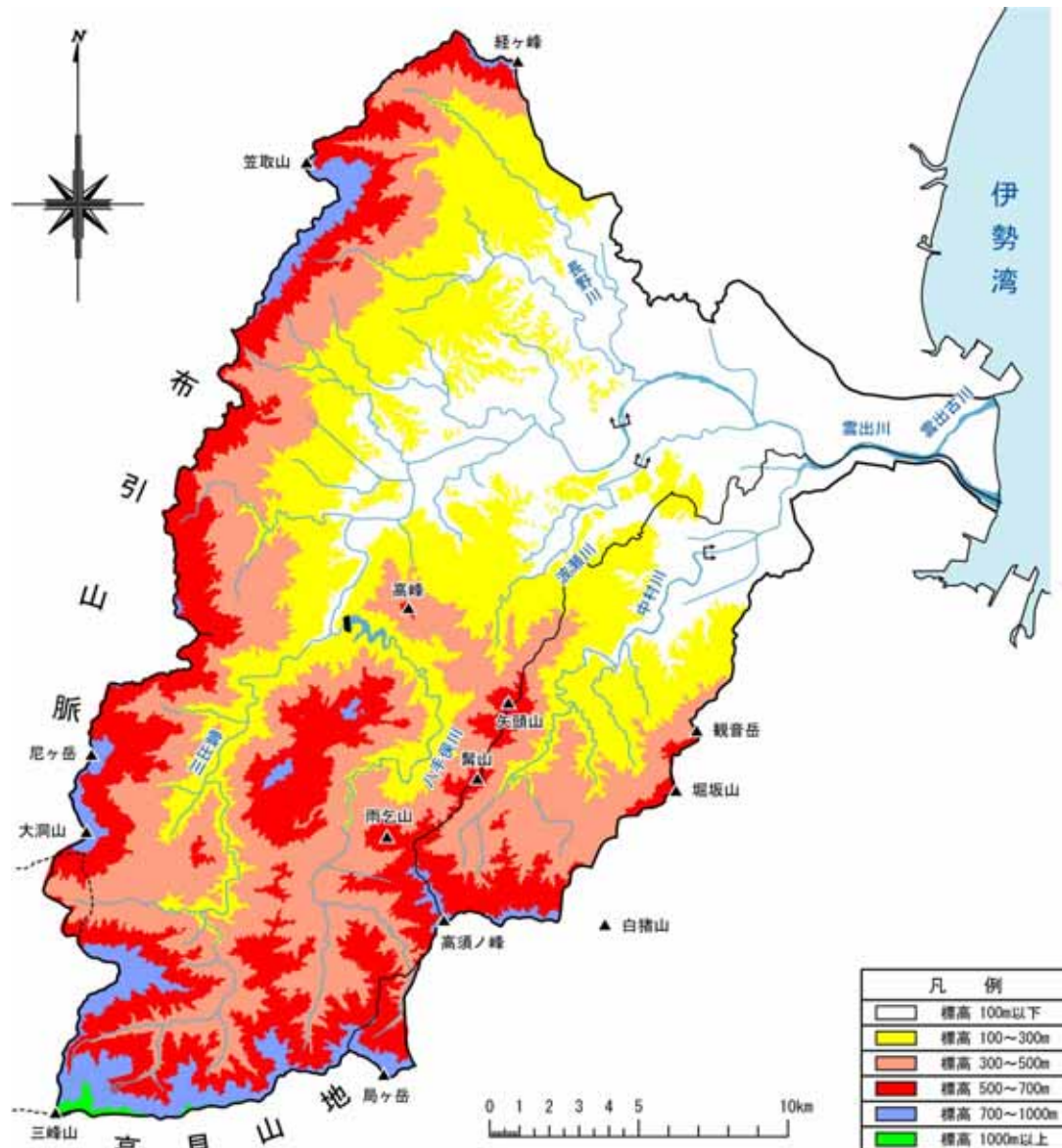
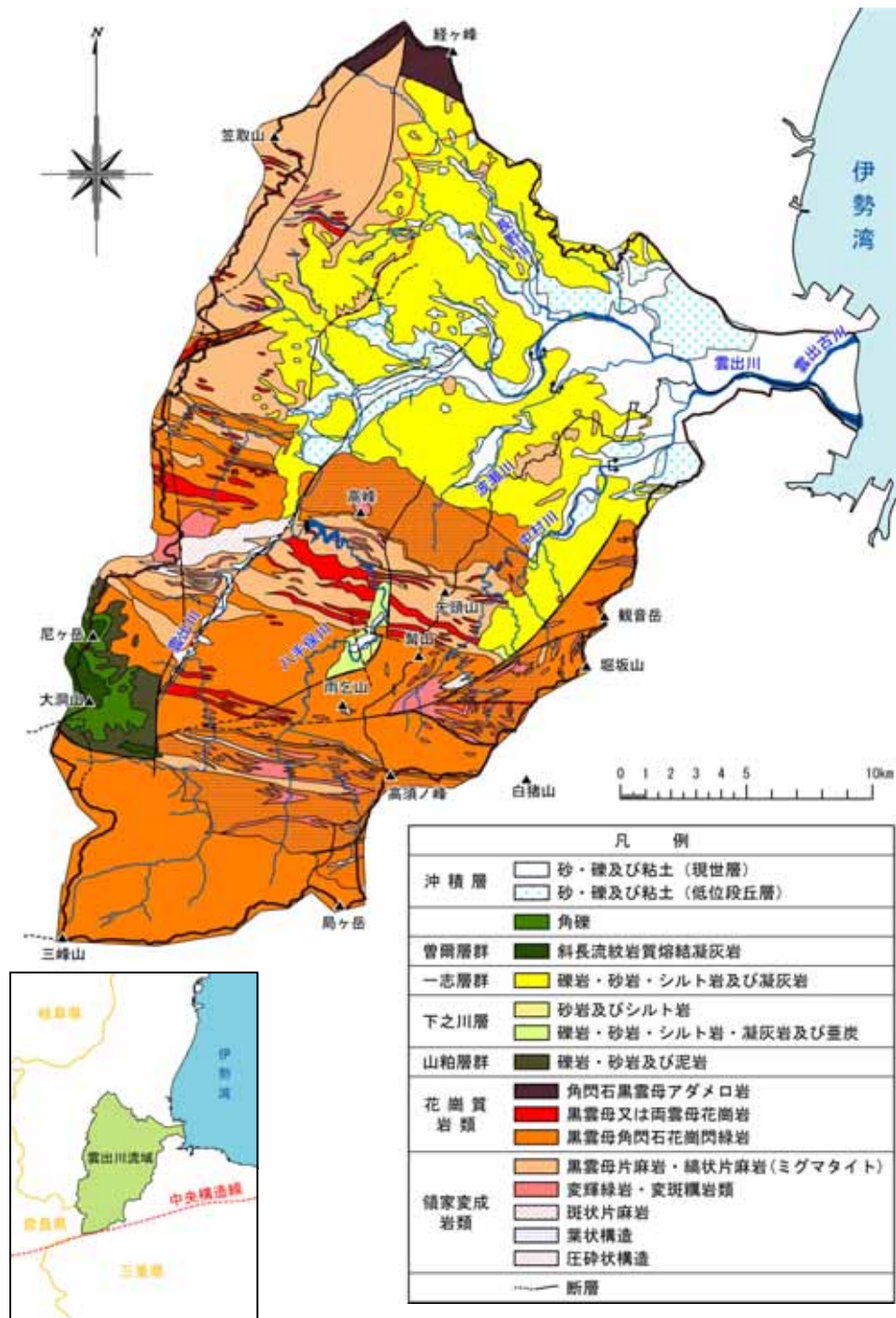


図 1-2 雲出川流域地形図

1-3 地質

雲出川は、三重県のほぼ中央部に属しており、^{くしだ}櫛田川沿いに走る中央構造線のすぐ北側の地帯にあたる。

上流域の地質は、主に花崗岩であるが領家変成岩類の貫入も所々に見られる。中流域は、津市久居地区、津市^{はくさん}白山町、松阪市^{うれしの}嬉野地区の一帯にわたって分布する一志層群の砂岩や礫岩類が広がり、下流域では沖積層が広がっている。



中央構造線位置図

図 1-3 雲出川流域地質図

1-4 気候

雲出川は布引山脈や高見山地からなる山間部から丘陵地帯を経て平野部を形成する典型的な扇状形の地形であり、流域の状況は中上流部の山間、丘陵部と下流部の平野部に大別される。

雲出川流域は、年平均気温 16℃程度で、全体的に温暖な気候を示している。雲出川流域の昭和 59 年～平成 15 年までの平均年降水量は上流山間部で 2,200mm を超え多くなっており、下流平野部では 1,600～1,800mm である。流域平均の年降水量は約 2,000mm で、全国平均の 1,718mm(昭和 46 年～平成 12 年「日本の水資源」より)よりもやや多い。年間の降雨量は 5～6 月の梅雨期及び 9 月の台風期に集中している。



図 1-4 年平均降水分布図 (S59～H15 年平均：欠測年は除く)

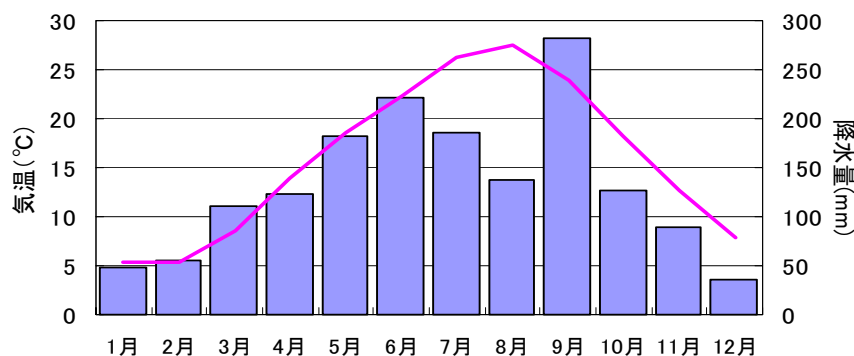


図 1-5 月別平均気温・降水量 (津地点：S59～H15 年平均)

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 自然環境

(1) 自然環境の概要

雲出川流域は、上流域の山地、中流域の丘陵地、下流域の平野部に大きく分けられ、植生や気候、土地利用などもこれらの区分によってそれぞれ異なる特徴を示す。

このようなことから雲出川の流域を以下の3つに区分することとした。

① 上流域（源流部～八手俣川合流点付近）

標高 300m以上の山地で、平地は谷底平野としてわずかに見られるのみである。平均年間降水量は 2,000mm を超え、源流部では 2,200mm を超える多雨地帯となっている。花崗岩類からなる地質が主体となっている。

植生は、スギ・ヒノキ等の人工林が大半を占めているが、ブナの自然林も点在している。

② 中流域（八手俣川合流点～高野頭首工）

標高 100～300mの丘陵地が広がり、平均年降水量は 1,800～2,000mm 程度である。地質は、一志層群の砂岩や礫岩類が広がっている。発達したアカマツ林や、スギ、ヒノキ等の人工林、コナラ、クヌギ等の落葉広葉樹やシナ、カシの萌芽林が見られる。

③ 下流域（高野頭首工～河口）

標高 100m以下で、伊勢平野の田園地帯が広がる。平均年降水量は 1,600～1,800mm 程度である。地質は沖積層が広がっており、農地や市街地としての利用が見られる。

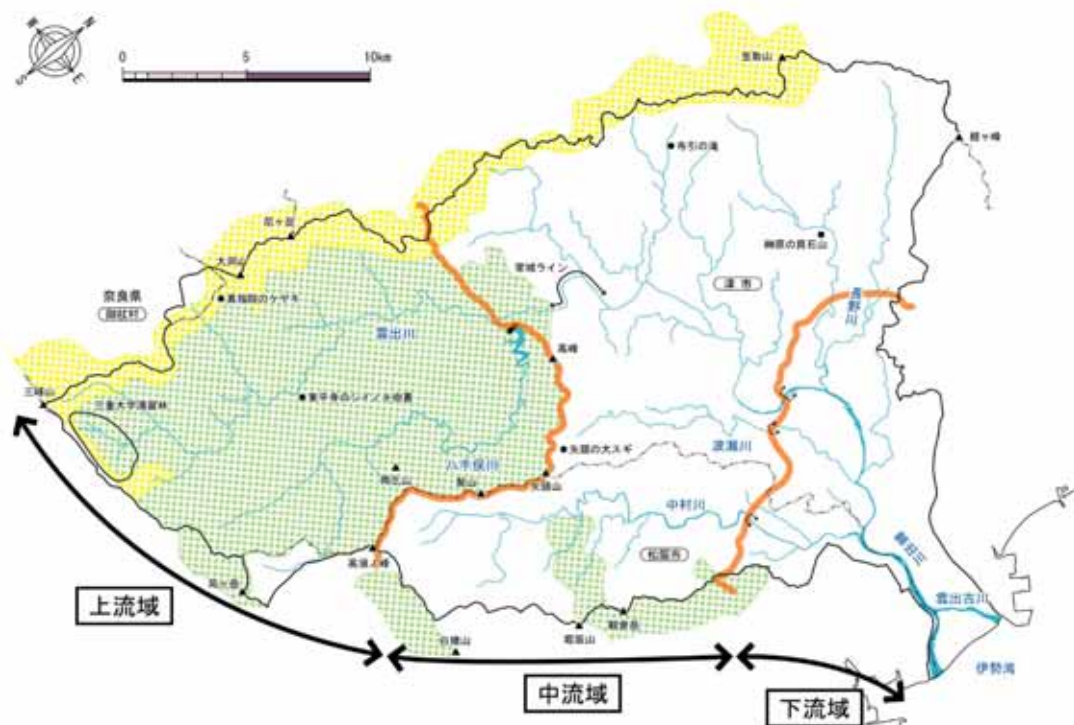


図 2-1 流域区分図

(2) 流域の自然環境

① 上流域

雲出川上流域は、布引山脈から高見山地にかけての一带が室生赤目青山国定公園に、津市美杉町のほぼ全域と松阪市の一部が赤目一志峡県立自然公園に指定されている。中でも、赤目一志峡県立自然公園は雲出川上流域の大半を占め、^{おくいちし}奥一志峡をはじめとした溪谷・景勝地が見られる。赤目一志峡県立自然公園内に位置する津市美杉町は、オオムラサキ、ギフチョウ、ゲンジボタル、ムカシトンボ等の貴重な昆虫の宝庫となっている。植生帯は、暖帯林（ヤブツバキクラス域）から温帯林（ブナミズナクラス域）に属し、最上流部の高見山地は、ブナクラスの自然林のほか、スギ、ヒノキ、アカマツなどの人工林が多く、大半を山林地が占める緑被度の高い流域を形成している。^{とうへいじ}東平寺のシイノキ樹叢、^{しんぷくいん}真福院のケヤキが県の天然記念物に指定されている。



東平寺のシイノキ樹叢（津市美杉町）
この地方の原植生を知る手がかりを与えるものとして保護されている。倒伏すると寺の本堂を壊す恐れがあるとして、一本伐られたが、直径2 mに達する切株の幹円板が本堂に保存されている。昭和 53 年に県の天然記念物に指定された。



真福院のケヤキ（津市美杉町）
真福院は、平安時代到大洞山の南麓に開かれた真言宗の古刹で、伊勢国司を務めた北畠氏一族の祈願所でもあったといわれている。境内のケヤキの巨木は、昭和 15 年に県の天然記念物に指定された。また、真福院参道の桜並木も国指定の名勝となっている。

② 中流域

中流域は、丘陵地帯から平野部となっており、発達したアカマツ林やスギ、ヒノキの植林地が多く見られ、コナラ、クヌギ等の落葉広葉樹やススキ草原等の代償植生、シイ、カシの萌芽林なども見られる。^{やず}矢頭の大スギ、^{さかさばら}榊原の貝石山が県の天然記念物に指定されている。



矢頭の大スギ（津市一志町）

波氏神社奥社の境内、矢頭の中宮にある樹齢1000年の大杉。昭和28年に県の天然記念物に指定され、ご神木として大切に祀られている。

所在地：矢頭山中腹（波瀬）

周囲：約20m 高さ：約40m



榊原の貝石山（津市榊原町）

榊原の貝石山の新世代の地層から、アカガイやカキといった貝類やサンゴ、サメの歯などの化石が多く出土しており、1500万年前にはこの辺りが海であったことを物語っている。昭和12年(1937)に県の天然記念物に指定されている。

③ 下流域

下流域は、沖積平野と沿岸部の干拓地形となり、水田、畑、果樹園として利用されている。

河口部の砂浜海岸は、ハマヒルガオ・ハマニガナ等海浜植物群落やクロマツ防風林がみられるほか、シギ、チドリ、カモ等の水鳥の県下有数の渡来地として有名である。津市と津市香良洲町の臨海部の砂浜海岸は、伊勢の海県立自然公園に指定されている。



田園風景（津市久居地区）

【出典：ひさい入門 久居市市勢要覧 H8】

下流の平野部には一志米の産地となる田園風景が広がっており、下流域の風景を特徴づけている。

(3) 河川の自然環境

① 上流部の自然環境

雲出川の源流にあたる平倉川上流部付近は三重大学演習林となっており、総面積460haのうち天然生林がほぼ60%を占め、モミ、ツガ等の針葉樹、ブナ、カエデ類、ケヤキ等の落葉広葉樹、シキミ、サカキ等の常緑広葉樹からなっている。このような環境に依存し、クマタカ等の鳥類やアマゴ、カジカ、アユ等の魚類が生息している。また、オオムラサキ、ギフチョウ、ゲンジボタル、ムカシトンボ等の貴重な昆虫の宝庫となっている。

雲出川の上・中流域の津市美杉町を中心に松阪市中部と伊賀盆地にまたがる区域は、

赤目一志峡県立自然公園に指定されており、雲出川の浸食でできた溪谷美が景勝地となっており、キャンプやハイキングの場として利用されている。また、八手俣川の君ヶ野湖周辺にはソメイヨシノが植えられており、春には見事な眺めとなるほか、新緑、紅葉のシーズンなど四季を通じて楽しむことができる。



平倉の三重大学演習林
(津市美杉町)

平倉川に位置する三重大学の演習林は、江戸時代から藩有林として保護され、総面積 460ha のうち天然生林がほぼ 60% を占め、クマタカやオオダイガハラサンショウウオなどが生息する動植物の宝庫となっている。



伊勢奥津 (津市美杉町)

松阪と名張を結ぶ予定であった名松線は、松阪駅から終着駅伊勢奥津まで雲出川沿いを走る。比津から伊勢奥津まで、3 回雲出川を渡り、左右の車窓から、雲出川の流れを望むことができる。

② 中流部の自然環境

中流部は、瀬と淵などの変化に富んだ流れがアユ等の水生生物の良好な生息環境となっており、清流を感じさせる。谷底平野には水田が広がり、河川沿いに畑や桑畑が点在する。スナヤツメやアカザなどの魚類が確認されている他、国の天然記念物に指定されているネコギギやオオサンショウウオの生息が報告されている。

青山高原の中腹には布引の滝があり、周辺は新緑、紅葉と四季の彩りが鮮やかでハイキングコースとなっている。

代表的な景勝地である家城ラインには、岩や石が突き出た趣のある景観が見られ、春には花見、夏には水遊びを楽しむ多くの人々で賑わう。



布引の滝 (津市白山町)

【出典：白山町パンフレット】

60m の「段瀑」で、上から、霧生滝、飛竜滝、大日滝となっている。山間を縫う一筋の流れと、新緑、紅葉、四季の彩りが鮮やかな周囲は、ハイキングコースとなっている。



家城ライン (津市白山町)

一志郡津市白山町真見の滝から同町瀬戸ヶ淵に至る約 3km の雲出川の奇勝。荒々しく削られた岩肌、雲出川の清流、深緑の淵など美しい風景が広がる。

③ 下流部の自然環境

下流部では、広い水面、河畔林、緩やかな流れ、変化に富んだ流れなど、広い川幅をゆったりと流れる景観を呈している。また高水敷では畑作やナシ等の果樹園として利用されている。

高水敷は、オギ群落、セイタカアワダチソウ群落等の高茎草本群落为主で、ムクノキ・エノキ群落等の樹林も点在して見られ、エナガ、コゲラ、ヒヨドリ等の鳥類が見られる。

また、雲出古川分派点の左岸付近はサギ類の集団繁殖地となっているほか、波瀬川合流点から小野江頭首工付近までは、アユの産卵場となっている。



アユの産卵場（津市一志町）

波瀬川合流点から小野江頭首工までは、産卵場としての条件を備えた絶好の場所である。6月～7月頃になると、アユ漁、投網、張切漁が解禁となる。



サギのコロニー（津市）

雲出川と雲出古川の分派点付近左岸の河畔林は、人が寄りつけないことからサギ類の集団営巣地（コロニー）となっており、4～8月にかけての子育ての時期は大変賑やかになる。

④ 河口部の自然環境

伊勢湾に流入する河口部には大きな干潟が形成されており、アイアシやハマボウ、シオクグ、ハママツナ等の塩沼植物が生息している。回遊魚、汽水・海水魚では、チチブ、マハゼ等が生息しており、冬季にはカモ類の集団越冬地、春季・秋季には旅鳥のシギ・チドリ類が多く渡来する。このため、環境省により「日本の重要湿地 500」に選定されている。



アイアシ群落（松阪市）

多年草、塩沼植物群落。草丈が高く密生するため、ヨシ群落同様、鳥類の隠れ場などに利用される。雲出川及び雲出古川の河口部で群落を形成して生育している。



雲出川に群れる鵜と鷺
（津市香良洲町）

【出典：香良洲町町勢要覧 H11】

河口部は、さまざまな鳥類の宝庫となっている。オオヨシキリやカルガモ、カイツブリといった水鳥は、河口部で子育ても行う。



干潟の風景（津市香良洲町）

雲出川河口部には、規模が大きな干潟があり、全国的に干潟が減少している中であって貴重である。春と秋にはシギ・チドリ類、冬はカモ類が姿を見せ、四季を通じて渡り鳥の休息・採餌の場を提供している。

⑤ 中村川の自然環境

流れが全体的に穏やかで、河岸に洲や草地主体の植生が広がる中村川では、カワセミやチュウサギが確認されている。また、天花寺橋^{てんげいじ}下流の高水敷を流れる水路の水辺でミゾコウジュが確認されている。

⑥ 波瀬川の自然環境

矢頭山^{やづ}を源流とする波瀬川の直轄管理区間 4.7km までは、ツルヨシ群落の面積比が高く、特に 1～2km 付近は両岸ともにまとまって自生している。また、河川水辺の国勢調査では、本川よりも多くの植物種が確認されており、植物相の広さが伺える。

また、流れの緩やかな場を生息地にする、タナゴ類やドジョウ等の魚類が確認されている。

(4) 動植物の生息状況

① 雲出川流域にすむ生物

雲出川の大匠管理区間上流部は一部が山付き区間であり、森林性の植物種が多く、中・下流部ではワンド状の止水的環境や湿地、砂州、塩沼地や、耕作地など、様々な環境が見られ、多様な生物が生息している。

雲出川の主要な植物群落の出現状況は、河口部の塩沼地や水際にアイアシ群落・ヨシ群落^なが分布しているのをはじめ、香良洲頭首工～長野川合流点付近（4～13km）まではオギ群落の優勢な分布域となっており、広く分布している。中村川合流点より上流（8～16km）では、ツルヨシ群落が水辺に広く分布している。

中村川合流点～小野江頭首工^{おのえ}付近（8～11km）の右岸高水敷には、耕作地が広く分布している。また、須賀瀬橋^{すがせ}～雲出井頭首工^{くもずい}付近（9～12km）の区間では、採草地としての



ハママツナ

一年草。塩生植物。
三重県レッドリスト 2005 及びレッドデータブック近畿の記載種。潮が満ちて波がくると浸かる塩性湿地に生育する。本川河口部、雲出古川で確認されている。



ハマボウ

落葉低木。塩生植物。
神奈川県を分布の東限とする暖地性の植物で、三重県では熊野灘沿岸地方に分布し、伊勢湾岸沿岸地域では稀な植物群落となっている。三重県レッドリスト 2005 記載種。

利用も見られ、一年生草本植物のヒメシバ群落などで構成される人工草地在り広がっている。香良洲頭首工～雲出井頭首工付近（4～12km）の高水敷には、多年生草本植物のセイトカアワダチソウ群落が分布している。

河口付近から上流域までメダケ群落が断続的に見られ、水際に帯状に分布し、雲出川の主要な景観を構成している。

また、河口の塩沼地や海浜環境では、その立地特有のアイアシやハマボウ、シオクグ、ハママツナ等の塩沼植物が確認されている。

雲出川流域にすむ魚類は、河口部および雲出古川ではビリンゴ、チチブ、マハゼなどの回遊魚、汽水・海水魚が中心となっている。

下流部ではオイカワ、アユ、中・下流部および支川の中村川ではオイカワ、タモロコ、カワヨシノボリ等が多く確認されているほか、スナヤツメ、ズナガニゴイ、アブラボテも確認されている。また、津市美杉町竹原付近では国の天然記念物であるネコギギの生息が報告されている。

回遊魚ではウキゴリ、スミウキゴリが河口より其倉橋（14.8km）付近まで、シマヨシノボリが河口より八手俣川合流点（34.2km）付近まで遡上しているのが確認されている。アユは放流されていることもあってほぼ全川で確認されており、波瀬川合流点から小野江頭首工までは産卵場となっている。



ネコギギ

【提供：清水義孝氏】

淡水魚。

伊勢湾と三河湾に流入する河川のみ生息する日本固有種。きれいな流水を好むことに加え、岸辺の入り組んだ場所に生息する。生物学的にも大変貴重な種である。



アブラボテ

【提供：清水義孝氏】

淡水魚。

比較的水のきれいな小川や用水路の水草の茂ったところを好む。雲出川下流部で確認されている。三重県レッドリスト 2005 の記載種。



キイロヤマトンボ

環境省レッドリスト及び三重県レッドリスト 2005 の記載種で、JR 紀勢本線雲出川鉄橋付近などで確認されている。



モノアラガイ

環境省レッドデータブック及び三重県レッドリスト 2005 の記載種。

中川原橋付近、天花寺橋付近、JR 紀勢本線雲出川鉄橋付近などで確認されている。

雲出川流域にすむ底生動物は、河口部では感潮区間が河口から約 3 km あり、比較的長く発達した干潟がみられることから、マキガイ綱やニマイガイ綱、ゴカイ綱、甲殻綱が確認されている。

香良洲頭首工より上流の区間では頭首工が多く存在し、湛

水区間が連続していることから、流れが緩やかで底質が細砂～細礫の区間が多く、石礫底の早瀬が形成されている区間はごく限られている。このような環境を反映して、流速の比較的緩い環境に生息する種(カゲロウ目のコカゲロウ科やマダラカゲロウ科、トンボ目、カメムシ目、コウチュウ目)等が多く確認されており、キイロヤマトンボ、モノアラガイ等が確認されている。

雲出川流域にすむ鳥類は、香良洲頭首工付近より下流部および雲出古川で、チュウサギ、コサギ・アオサギ等のサギ類やカワウが多く見られ、秋季から冬季にはヒドリガモ・コガモ・ホシハジロ等のカモ類が多く見られる。

香良洲頭首工付近より上流部では、サギ類やカワウの他、砂礫州のある所でセグロセキレイ・イカルチドリが確認されており、高水敷に樹林がある所では、キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、シジュウカラ等の林地性の種も確認されている。雲出大橋付近の左岸はサギ類の集団繁殖地となっている。また、中村川合流点付近と雲出川河口部は、冬季にカモ類の集団越冬地となっているほか、春季・秋季には旅鳥のシギ・チドリ類が多く確認されている。



チュウサギ

環境省レッドデータブック及び三重県レッドリスト2005の記載種。マツやコナラの木や竹藪に枯れ枝でコサギ・ゴイサギ等に混じって集団営巣をする。

雲出川流域にすむ昆虫類は、ヨシ、クズ、セイタカアワダチソウ、ヤナギ、メダケ等の河川区域内の植生条件を反映し、全川的にササキリ類、コオロギ類、ショウリョウバッタ等のバッタ目、ハマベアワフキ等のカメムシ目、ベニシジミ、マメコガネ、ナナホシテントウ、クロトゲハムシ等の草地を主たる生息域とする昆虫類が多く確認されている。また、河川敷に樹林地には、クワガタムシ類、カナブン、オオスズメバチなど樹林地性の種類も確認されている。また、ワンドや湿地が見られる所もあり、そのような環境では、ハグロトンボ、アオサナエ、コシアキトンボ等のトンボ目、アメンボ類、ゲンゴロウ類など水域を主たる生息域とする昆虫類が確認され、トンボ類が豊富に確認されている。海岸付近の砂浜に生息するハマヒョウタンゴミムシや、川原の砂地に生息し、近年全国的に減少傾向にあるカワラゴミムシなどが確認されている。

雲出川流域にすむ両生類ではトノサマガエル、ヌマガエルやウシガエル、爬虫類ではカナヘビ、哺乳類ではコウベモグラ、タヌキ、イタチ属などが確認されている。中流部の支川では国の天然記念物であるオオサンショウウオの生息も報告されている。

生息環境との関連でみると、下流部の高茎草本地ではカヤネズミの巣が確認されているほか、点在する池やワンドの岸边、水たまりなどではアマガエルやトノサマガエルなどが繁殖場として利用している。河川敷の平地にはカナヘビなどが確認されている。

特定種は、4.5km 付近右岸側にみられる池でスッポンが確認されている。

② 雲出川における貴重な種

雲出川における貴重な種は、河川水辺の国勢調査等における現地調査確認種をもとに以下の基準で選定した。

【「重要種」の選定に用いた文献】

- ・「文化財保護法」「文化財保護条例」における国、都道府県、市町村指定天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- ・環境省（庁）編「日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブック」掲載種
（2000：植物Ⅰ（維管束植物）、爬虫類・両生類、2002：鳥類、哺乳類、
2003：汽水・淡水魚類、2005 陸・淡水産貝類、2006：クモ形類・甲殻類等）
- ・環境省（庁）編「レッドリスト」掲載種（2000：昆虫類）
- ・地方版レッドデータブック
三重県レッドリスト 2005（2005：三重県環境森林部自然環境室）
改訂・近畿地方の保護上重要な植物
ーレッドデータブック近畿 2001ー（2001：レッドデータブック近畿研究会）
近畿地区鳥類レッドデータブック（2002：近畿鳥類レッドデータブック研究会）

既往の河川水辺の国勢調査により確認された種のうち、植物 20 種、陸上昆虫類 25 種、底生動物 11 種、魚類 13 種、爬虫類 1 種、鳥類 59 種が特定種として確認された。

■雲出川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
キシヤナギ	三重レ(VU)	雲出川下流部
ハマツナ	三重レ(NT)、近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
ベンケイソウ	近畿レ	雲出川下流部
タコノアシ	環(VU)、三重レ(VU)、近畿レ	雲出川下流部、中村川
ハマボウ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川河口部
ゴキヅル	三重レ(EN)	雲出川河口部～下流部
ヒメミソハギ	三重レ(NT)、近畿レ	雲出川下流部
ハマサジ	環(VU)、三重レ(NT)、近畿レ	雲出古川
ミゾコウジュ	環(NT)、三重レ(VU)、近畿レ	雲出川河口部～下流部、中村川、波瀬川
シソクサ	近畿レ	雲出川下流部
カワヂシャ	環(NT)、三重レ(DD)、近畿レ	雲出川下流部
フクド	三重レ(VU)、近畿レ	雲出古川
オナモミ	三重レ(EX)、近畿レ	雲出川河口部～下流部、雲出古川
ニラ	近畿レ	雲出古川
ノカンゾウ	三重レ(NT)	雲出川河口部～下流部、中村川
アイアシ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
ナガミノオニシバ	三重レ(NT)、近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
コガマ	近畿レ(NT)、近畿レ	雲出川下流部
シオクグ	近畿レ	雲出川河口部、雲出古川
マツカサススキ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

近畿レ…「改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿2001」記載種

出典：平成 7年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系植物調査報告書
平成 10年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系植物調査報告書
平成 13・14年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系植物調査報告書

■雲出川で確認された陸上昆虫類等の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
ワスレナグモ	環 (NT)、三重レ (VU)	雲出川下流部、中村川
オニグモ	三重レ (NT)	雲出川河口部～下流部、雲出古川、中村川
コガネグモ	三重レ (NT)	雲出川河口部～下流部、中村川
ドヨウオニグモ	三重レ (NT)	雲出川河口部～下流部、中村川
イサゴコモリグモ	三重レ (VU)	雲出川下流部
コサナエ	三重レ (EN)	中村川
キイロヤマトンボ	環 (VU)、三重レ (EN)	雲出川下流部
ヒサゴクサキリ	三重レ (DD)	中村川
エサキアメンボ	環 (NT)、三重レ (NT)	雲出川下流部
ナガミズムシ	環 (NT)、三重レ (DD)	雲出川下流部
ミヤケミズムシ	三重レ (DD)	雲出川下流部
ヒメミズカマキリ	三重レ (NT)	雲出川下流部
ギンイチモンジセセリ	環 (NT)、三重レ (VU)	雲出川下流部、中村川
アオメアブ	三重レ (DD)	雲出川河口部～下流部、雲出古川、中村川
クロバネツリアブ	三重レ (DD)	雲出川河口部～下流部
オオハチモドキバエ	三重レ (DD)	中村川
アオヘリアオゴミムシ	三重レ (EN)	雲出川下流部、雲出古川
コガタノゲンゴロウ	環 (CR+EN)、三重レ (EX)	雲出川下流部、雲出古川
カワラゴミムシ	三重レ (EN)	雲出川河口部～下流部
アラメエンマムシ	三重レ (DD)	雲出川下流部
ヤマトモンシデムシ	三重レ (VU)	雲出川下流部
ジュウクホシテントウ	三重レ (NT)	雲出川下流部
クロスジイッカク	三重レ (NT)	雲出川河口部～下流部
モンスズメバチ	三重レ (VU)	雲出川下流部、中村川
マイマイツツハナバチ	三重レ (EN)	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」及び「レッドリスト」
記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類
NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 6・7年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系陸上昆虫類調査報告書
平成 11年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系陸上昆虫類調査報告書
平成 16年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系陸上昆虫類調査報告書

■雲出川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
マルタニシ	環 (NT)、三重レ (NT)	雲出川下流部、雲出古川、中村川
イボウミニナ	三重レ (VU)	雲出川河口部、雲出古川
ミズゴマツボ	三重レ (DD)	雲出川河口部、雲出古川
モノアラガイ	環 (NT)、三重レ (NT)	雲出川下流部、中村川
イシガイ	三重レ (NT)	中村川
ハマグリ	三重レ (VU)	雲出川河口部、雲出古川
アリアケモドキ	三重レ (VU)	雲出川河口部、雲出古川
キイロヤマトンボ	環 (VU)、三重レ (EN)	雲出川下流部
コオイムシ	環 (NT)	雲出川下流部
ヒメミズカマキリ	三重レ (NT)	中村川
セスジガムシ	環 (NT)	雲出川下流部

国指・・・国、県、市町村指定天然記念物

保存・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
および緊急指定種

環・・・環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」及び「レッドリスト」
記載種

CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類 VU・・・絶滅危惧種II類
NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足 LP・・・絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ・・・「三重県レッドリスト2005」記載種

CR・・・絶滅危惧IA類 EN・・・絶滅危惧IB類 CR+EN・・・絶滅危惧I類 VU・・・絶滅危惧種II類
NT・・・準絶滅危惧種 DD・・・情報不足

出典：平成 6・7年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系底生動物調査報告書

平成 12年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系底生動物調査報告書

■雲出川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スナヤツメ	環(VU)、三重レ(VU)	雲出川下流域、中村川
ヤリタナゴ	三重レ(VU)	雲出川下流域、中村川、波瀬川
アブラボテ	三重レ(VU)	雲出川下流域
カネヒラ	三重レ(EN)	雲出川下流域、中村川
カワヒガイ	三重レ(EN)	雲出川下流域、中村川
ズナガニゴイ	三重レ(EN)	雲出川下流域
ネコギギ	国指、環(EN) 三重レ(CR)	雲出川中～上流域、中村川(文献による確認)
アカザ	環(VU)、三重レ(VU)	雲出川下流域
メダカ	環(VU)、三重レ(NT)	中村川
カマキリ	三重レ(VU)	雲出川下流域
トビハゼ	三重レ(CR)	雲出川河口域、雲出古川
キセルハゼ	環(CR)、三重レ(EX)	雲出川河口域、雲出古川
アシシロハゼ	三重レ(EN)	雲出川河口域、雲出古川

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 3年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系魚類調査報告書

平成 7・8年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系魚類調査報告書

平成 12年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系魚類調査報告書

■雲出川で確認された爬虫類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スッポン	DD	雲出川下流部

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

出典：平成 3年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

平成 8年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

平成 13年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

■雲出川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
カンムリカイツブリ	近畿レ	雲出川下流域、雲出古川
ヨシゴイ	三重レ(DD繁)、近畿レ	雲出川河口域
ササゴイ	三重レ(VU繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
チュウサギ	環(NT)、三重レ(VU繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
コクガン	環(VU)、三重レ(VU越)	雲出川河口域、
ツクシガモ	環(EN)	雲出川河口域
マガモ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川、中村川
ホオジロガモ	近畿レ	雲出川河口域
ウミアイサ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
ミサゴ	環(NT)、三重レ(EN繁・VU越)、近畿レ	雲出川河口域～下流域
オオタカ	保存、環(VU)、三重レ(VU留)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
ハイタカ	環(NT)、三重レ(NT越)、近畿レ	雲出川下流域
ノスリ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
サシバ	三重レ(EN繁)、近畿レ	雲出川河口域
チュウヒ	環(VU)、三重レ(CR 繁、VU 越)、近畿レ	雲出川下流域
ハヤブサ	保存、環(VU)、三重レ(CR 繁、EN 越)、近畿レ	雲出川河口域
チョウゲンボウ	三重レ(NT 越)、近畿レ	雲出川河口域～下流域
コチドリ	三重レ(EN 繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川
イカルチドリ	三重レ(VU 繁・NT 越)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
シロチドリ	三重レ(EN 繁・NT 越)、近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
ムナグロ	近畿レ	雲出川河口域～下流域
ダイゼン	近畿レ	雲出川河口域
タゲリ	三重レ(VU)、近畿レ	雲出川下流域
キョウジョシギ	近畿レ	雲出川河口域
トウネン	近畿レ	雲出川河口域
ヒバリシギ	近畿レ	雲出川河口域
オジロトウネン	三重レ(DD 越)、近畿レ	中村川
ハマシギ	近畿レ	雲出川河口域
オバシギ	近畿レ	雲出川河口域
アオアシシギ	近畿レ	雲出川河口域
クサシギ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
キアシシギ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川、中村川
イソシギ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川、中村川
ソリハシシギ	近畿レ	雲出川河口域～下流域
オグロシギ	近畿レ	雲出川河口域～下流域
オオソリハシシギ	近畿レ	雲出川河口域
ホウロクシギ	環(VU)、三重レ(NT 通)、近畿レ	雲出川河口域
チュウシャクシギ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
オオセグロカモメ	近畿レ	雲出川河口域
ウミネコ	近畿レ	雲出川河口域、雲出古川
コアジサシ	環(VU)、三重レ(EN 繁)、近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川
カッコウ	近畿レ	雲出川下流域
ホトトギス	近畿レ	雲出川下流域
アマツバメ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
ヤマセミ	近畿レ	雲出川下流域
カワセミ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川、波瀬川
アリスイ	近畿レ	雲出川下流域
アカゲラ	近畿レ	雲出川下流域
ハクセキレイ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川、中村川
ビンズイ	近畿レ	雲出川下流域
ノビタキ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、中村川
イソヒヨドリ	近畿レ	雲出川河口域～下流域、雲出古川
オオヨシキリ	三重レ(NT 繁)、近畿レ	雲出川下流域、雲出古川、中村川
セッカ	近畿レ	雲出川下流域、雲出古川、中村川

種名	指定区分	確認場所
ホオアカ	近畿レ	雲出川下流域
ミヤマホオジロ	近畿レ	雲出川下流域
アオジ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
ベニマシコ	近畿レ	雲出川下流域、中村川
シメ	近畿レ	雲出川下流域、中村川

国指……国、県、市町村指定天然記念物

保存……「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種
および緊急指定種

環……環境省「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足 LP…絶滅のおそれのある地域個体群

三重レ…「三重県レッドリスト2005」記載種

CR…絶滅危惧IA類 EN…絶滅危惧IB類 CR+EN…絶滅危惧I類 VU…絶滅危惧種II類

NT…準絶滅危惧種 DD…情報不足

近畿レ…「近畿地区鳥類レッドデータブック」記載種

出典：平成 4年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系鳥類調査報告書

平成 9年度 河川水辺の国勢調査 雲出川水系鳥類調査報告書

平成 13・14年 河川水辺の国勢調査 雲出川水系鳥類調査報告書

(5) 雲出川を特徴づける場所

地域の有識者からなる「雲出川環境特性懇談会」（平成 9～10 年開催）において、雲出川を特徴づける場所として以下の 34 箇所が抽出されている。

表 2-1 雲出川を特徴づける環境

	らしさのキーワード	位 置	内 容
1	河口に広がる干潟	雲出川本川河口 (0～1.0km 付近)	規模の大きな干潟があり、四季を通じ、渡り鳥の休息・採餌の場を提供している。
2	香良洲道の面影漂う風景	香良洲大橋付近 (2.2km 付近)	香良洲大橋のたもとにある常夜灯と道標は、往時の伊勢街道の趣を今に伝えている。(現在は移設)
3	サギのコロニー	雲出川と雲出古川の分派点 付近 (2.7km 付近)	雲出川と雲出古川の分派点の左岸部の河畔林は、サギ類の集団営巣地(コロニー)となっている。
4	三雲の笹流し	雲出橋付近 (4.0km 付近)	三雲の笹流しは、雲出橋から笹を流し、流れる笹をライトアップする行事で、夏の風物詩となっている。(現在は笹飾りが行われている)
5	カヌー公園	JR 橋梁付近 (4.8km 付近)	香良洲頭首工から笠松頭首工までの区間は、カヌー遊びの絶好の環境であり、JR 橋梁付近にカヌー公園(雲出川河川敷公園)が整備されている。
6	大正橋下流に広がる親水空間	笠松頭首工～大正橋下流 (6.2～6.7km 付近)	大正橋下流にある雲出川緑地は、現在、スポーツの場として利用されており、イベント等の利用価値が高い場所である。
7	豊かな植生の残る中村川合流点付近	中村川合流点付近 (7.2km 付近)	霞堤周辺には、豊かな植生が残されており、雲出川と中村川の合流点の広い水面には、2～4月にかけてカモ類が多く見られる。
8	広い河川敷のある須賀瀬橋付近	須賀瀬橋付近 (9.3km 付近)	須賀瀬橋下流の広い河川敷は、大人数で生物調査ができる場として利用されている。また、水防演習の場にも利用され、雲出川と人とのふれ合いの場となっている。
9	白波の立つ瀬と白い砂州	波瀬川合流点付近 (9.8km 付近)	アユの産卵の時期には、波瀬川合流点から小野江頭首工まで真っ白になる程、産卵場としての条件を備えた絶好の場所である。
10	投網漁が見られる小戸木橋付近	小戸木橋～小野江頭首工 (10.7～11.0km 付近)	小戸木橋でのアユ漁は網が多く用いられている。網の解禁日以後には小戸木橋で投網をする人が見られる。
11	一志米を支えてきた雲出井	雲出井頭首工付近 (12.4km 付近)	雲出川流域が米所(一志米)として栄える原点となった、雲出井頭首工は、流域住民の格別な思いが込められている。
12	水量感のある風景	中川原橋付近 (13.2km 付近)	広い水面幅を有し、穏やかに蛇行して流れる様は、昔の面影がなくなりつつある雲出川の中では貴重な箇所である。
13	流れの変化に富んだ其倉橋付近	其倉橋付近 (14.7km 付近)	白波立つ流れや静かな流れ等変化に富み、蛇行して流れいく様が、其倉橋付近の景観を特徴付けている。
14	石橋付近の“光の帯”	石橋～高野頭首工 (15.5～15.8km 付近)	ゲンジボタルが水際のヨシ原を飛び、雲出川の上に光の帯が浮かび上がる様は、夏の風物詩となっている。
15	大井小前に広がる環境学習の場	大井小学校～大仰橋 (17.3～17.5km 付近)	桜並木や広い河川敷があり、水辺に近づきやすく、水質調査や生物調査等の環境学習の場として利用されている。
16	安らぎの場・亀ヶ広	亀ヶ広付近 (20.6km 付近)	車で降りることのできる広い河川敷があり、花見や夏の水遊びを楽しむ家族連れで賑わう。
17	カワウの集う早瀬	弁天川合流点付近 (22.0km 付近)	早瀬に集まる魚を採餌するカワウが見られる。この付近は、岩が点在しており、鳥類が休息出来る条件も有している。
18	古代の面影残す川口付近	八ッ山大橋付近 (25.5km 付近)	聖武天皇の頓宮があり、現在は川口頓宮跡の碑が建てられており、交通の要所として栄えていた歴史を伺わせている。
19	雲出川の景勝地・瀬戸ヶ淵	瀬戸ヶ淵付近 (27.5km 付近)	白い岩肌と青緑の透明感のある流れが見られる景勝地であり、雲出川の代表的な景観として挙げられる。
20	雲出川ほとりの湧き水	瀬戸ヶ淵付近 (28.5km 付近)	「こぶ湯」と呼ばれる湧水があり、飲むとこぶがとれたり、胃腸病に効果があると言われ、多くの人々が水汲みに訪れる。
21	四季折々の自然にふれられるわかすぎの里	わかすぎの里付近 (藤川 4.0km 付近)	ニジマスのつかみ取りをはじめ、オートキャンプ場や桜、ツツジ、水遊び、紅葉、シシ鍋等、四季を通じ、自然とふれ合う場として利用されている。
22	両国橋のいかだ下り	両国橋付近 (29.0km 付近)	両国橋右岸側にある家城小学校では、二雲橋から両国橋間で毎年、いかだ下りの行事を行っている。
23	釣りや水遊びの場・家城ライン	家城ライン (30.0～31.2km 付近)	鰐穴のある奇岩・奇石が多く見られる。春は真見の堰堤付近の花見、夏は水遊びや釣りを楽しむ人々で賑わう。
24	桜の新名所・君ヶ野湖	君ヶ野ダム (八手俣川 1.0km 付近)	春には桜の新名所として賑わうほか、四季折々のスポーツ、キャンプ、イベントの場として親しまれている。

	らしさのキーワード	位 置	内 容
25	のんびりとしたアユ釣り場	八知 ^{やち} ～坂本川合流点 ^{さかもと} (41.0～53.5km 付近)	川原の開けた釣り場が続いており、多くの人が訪れる。
26	アマゴの里	坂本川 (坂本川全域)	坂本川はアユとともにアマゴの釣りの場や養殖が盛んで、アマゴのつかみ取りができる施設もある。
27	雲出川の源流	平倉の三重大学演習林 (平倉川上流部付近)	天然生林がほぼ60%を占め、動植物の宝庫となっており、バードウォッチング、動植物の観察などの愛好家に親しまれている。
28	野鳥観察の場	雲出古川河口 (雲出古川 0～1.0km 付近)	鳥類の採餌の場、休憩の場としての干潟が残されている。渡り鳥の渡来する 4～5 月と 9～10 月には、野鳥の観察会が行われている。
29	宮古忘れの地	小川橋付近 ^{おがわ} (中村川 1.5km 付近)	斎宮が伊勢神宮に入る際の通り道で「この三重の雲出川まで来たら都を忘れなさい」という意味から名付けられている。
30	戸井佐近の墓 ^{といきこん}	中郷小学校前付近 ^{なかさと} (中村川 8.8km 付近)	室町時代の干ばつの際、井堰を取り壊そうした農民から命をかけて井堰を守った侍、戸井左近を祀っており、井堰と深い関わりを持つ雲出川を今に伝える場である。
31	津市の飲料水	旧美里村役場前付近 ^{みさと} (長野川 8.0km 付近)	この場所で取水されている津市の上水は、昭和 60 年に「おいしい水研究会」によりおいしい飲料水として挙げられている。
32	里山の自然にふれられる水遊びの場	室の口付近 ^{むろ} (波瀬川 20.0km 付近)	流れに透明感があり、岩石が点在するため、格好の水遊びの場となっており、昔より、身近な川として地域と関わっている。
33	波瀬川上流のキャンプ場	矢頭中宮公園付近 (波瀬川 27.5km 付近)	矢頭中宮公園にはキャンプ場があり、溪流の自然にふれるために、四季を通じてたくさんの人が訪れる場所である。
34	地域を支えた雲出川の舟運	—	街道筋に、小野江の渡し、雲出の渡し、大仰の渡し等があり、渡し運賃をはじめいろいろな恵みをもたらした場である。



1 河口に広がる干潟



2 香良洲道の面影漂う風景



3 サギのコロニー



4 三雲の笹流し



5 カヌー公園



6 大正橋下流に広がる親水空間



7 豊かな植生の残る中村川合流点付近



8 広い河川敷のある須賀瀬橋付近



9 白波の立つ瀬と白い砂州



10 投網漁が見られる小戸木橋付近



11 一志米を支えてきた雲出井



12 水量感のある風景



13 流れの変化に富んだ其倉橋付近



14 石橋付近の“光の帯”



15 大井小前に広がる環境学習の場



16 安らぎの場・亀ヶ広



17 カワウの集う早瀬



18 古代の面影残す川口付近



19 雲出川の景勝地・瀬戸ヶ淵



20 雲出川ほとりの湧き水



21 四季折々の自然にふれられる
わかすぎの里



22 両国橋のいかだ下り



23 釣りや水遊びの場・家城ライン



24 桜の新名所・君ヶ野湖
【出典：雲出川八景（社）久居
青年会議所】



25 のんびりとしたアユ釣り場



26 アマゴの里



27 雲出川の源流



28 野鳥観察の場



29 宮古忘れの地



30 戸井佐近の墓



31 津市の飲料水



32 里山の自然にふれられる水遊びの場



33 波瀬川上流のキャンプ場



34 地域を支えた雲出川の舟運

2-2 特徴的な河川景観や文化財等

雲出川流域は、室生赤目青山国定公園をはじめ、赤目一志峡県立自然公園・伊勢の海
県立自然公園があり、優れた自然環境が点在している。

上・中流域では奥一志峡、瀬戸ヶ淵、家城ライン等の奇岩怪岩に富む溪谷美が特徴的
である。また、君ヶ野ダム・二雲橋・亀ヶ広・石橋・榊原温泉・中村川堤防・カヌー公
園・香良洲橋は久居青年会議所が住民に募集して決定した雲出川八景に取り上げられて
いる。

下流域は、沖積平野の中を大きく蛇行しながら流下しており、広大な田園風景が特徴
付けられる。

河口部においては、干潟が発達しており、春から初夏の潮干狩り、夏の海水浴、冬の
シラス取りが雲出川の風物詩になっている。

雲出川流域は、縄文時代から人が定住し、南北町時代には北畠氏が支配し、江戸時代
に入ると久居に藤堂藩の城下町が開けたことから、古来からの歴史と文化を感じさせる
遺跡が多く残されている。また古代から、大和と伊勢を結ぶ街道が流域内を通り、交通
の要衝でもあった。

このようなことから、雲出川流域には多くの文化財が存在し、このうち国及び県指定
の史跡、名勝、天然記念物は13件（うち、国指定6件、県指定7件）が存在する（平成
16年度現在）。

表 2-2 雲出川流域の史跡、名勝、天然記念物指定一覧

No.	名 称	指定区分	指定年月日	所在地
1	向山古墳	国史跡	1975(S50)6.26	松阪市嬉野下之庄町
2	天白遺跡	国史跡	2000(H12)4.11	松阪市嬉野釜生田町
3	伊勢山上	県名勝	1952(S27)8.8	松阪市飯福田町
4	矢頭の大スギ	県天然記念物	1953(S28)5.7	津市一志町波瀬
5	真盛上人誕生地	県史跡	1938(S13)2.17	津市一志町大仰
6	東平寺のシイノキ樹叢	県天然記念物	1978(S53)2.7	津市美杉町八知
7	真福院のケヤキ	県天然記念物	1940(S15)8.8	津市美杉町三多気
8	三多気のサクラ	国名勝	1942(S17)7.21	津市美杉町三多気・杉
9	霧山城跡	国史跡	1936(S11)9.3	津市美杉町上多気
10	北畠氏館跡庭園	国名勝及び史跡	1936(S11)9.3	津市美杉町上多気
11	榊原の貝石山	県天然記念物	1937(S12)12.27	津市榊原町
12	柳谷の貝石山	県天然記念物	1941(S16)2.13	津市美里町三郷字松尾
13	長野氏城跡	国史跡	1982(S57)1.16	津市美里町桂畑字荒井

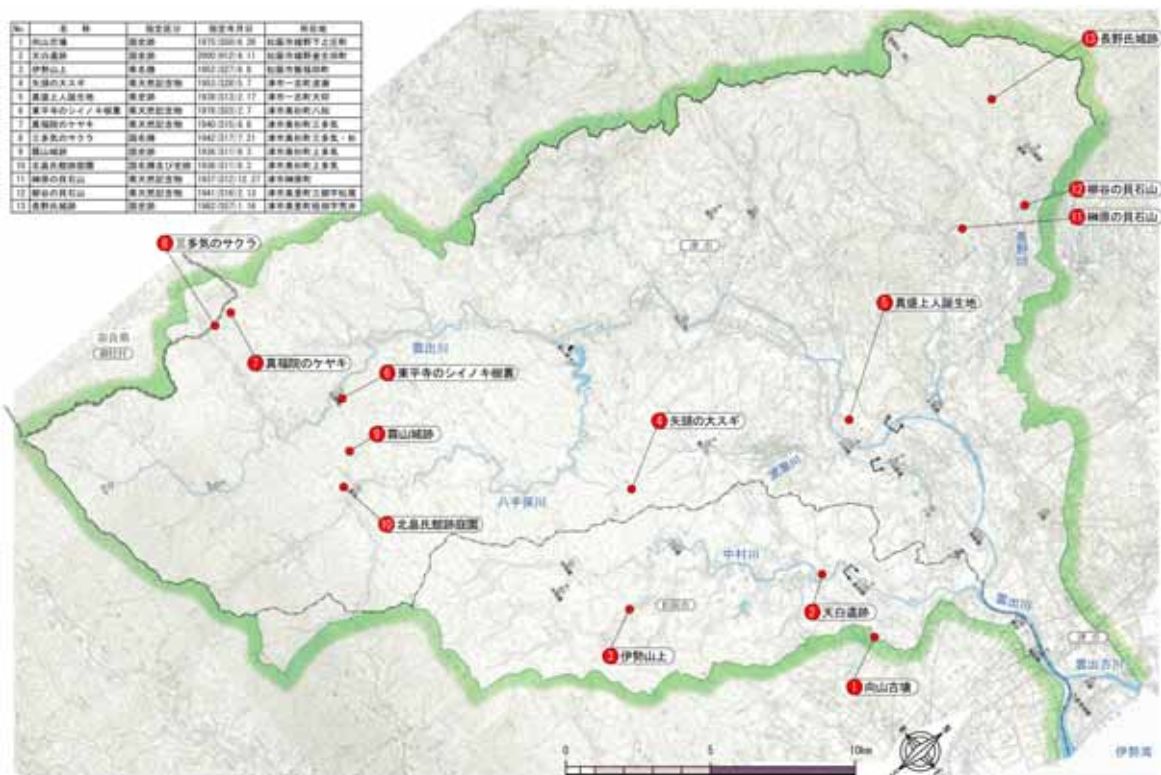


図 2-3 雲出川流域の史跡・名勝・天然記念物位置図



石 橋（津市一志町）

【出典：雲出川八景（社）久居青年会議所】

位置：津市一志町石橋地先
増水時は水に浸かる潜水橋。
石橋付近左岸側では、6月になると水際のヨシ原を飛ぶゲンジボタルを見ることができる。



亀ヶ広（津市白山町・津市一志町）

位置：津市白山町・津市一志町
車で降りることのできる広い河川敷があり、花見や夏には水遊びを楽しむ家族連れで賑わう。



香良洲橋（津市香良洲町）

位置：津市香良洲町^{さくらまち}桜町地先
現在、旧香良洲大橋のたもとにあった、常夜灯と道標及び、世の見の木（榎）は移設された香良洲大橋付近に移されている。
榎の移植：平成 12 年 1 月
常夜灯等移設：平成 12 年 3 月

[特徴的な河川景観]

(1) 雲出川八景

平成 8 年に「雲出川を守り、愛する運動」の一つとして、久居青年会議所が子供達に伝え、残したい雲出川風景を住民に募集、8ヶ所を「雲出川八景」として選定した。

○ 君ヶ野ダム

八手俣川の豊かな水量を生かして建造された重力式多目的ダムであり、周辺は桜、新緑、紅葉など季節折々のすばらしい景観が見られる。



君ヶ野ダム（津市美杉町）

【出典：雲出川八景（社）
久居青年会議所】

位置：津市美杉町八手俣
昭和 47 年に完成した県営君ヶ野ダム。
総貯水量：23,300 千 m³
有効貯水量：19,700 千 m³

○ 二雲橋

J R 名松線から見られる雲出川の景色の中でも特に美しく、新緑に囲まれた岩肌が壮大な河川景観をなしている。

○ 亀ヶ広

布引山と呼ばれる青山高原を背景に、雲出川沿いに桜のトンネルが続き、桜の季節には花見客で賑わう。

○ 石橋

河原の葦を縫うように細やかなカーブを描いており、石橋の隣を平行に走る、列車、石橋、水鳥、葦原が雲出川を象徴しているといえる。



二雲橋（津市白山町）

位置：津市白山町北家城
重圧な石造りで、家城ラインに架かる二雲橋。すぐ上流に JR 名松線が走っている。

○ 榑原温泉

「七栗^{ななくり}の湯」として知られた古湯に、現代でも多くの旅人が訪れ、自然が多く残された風景を含め、景勝地となっている。

○ 中村川堤防（中村川桜つつみ）

遠くに笠取の山並みを望み、川に沿った桜並木は桜の季節には壮観な景色を呈している。

○ カヌー公園

河川敷の河畔林、護岸の階段、芝生等が人と川との関わりを象徴した風景となっている。

○ 香良洲橋

香良洲神社の参拝に訪れる人々の安全を願って作られた常夜灯があり、大木と石橋を併せて深い趣が感じられる。

(2) 一志峡

津市美杉町を流れる雲出川の全域が溪谷といえ、上流の若宮八幡宮までの区間を総称する。春の新緑、秋の紅葉に溪谷が映える景勝地となっており、キャンプやハイキングの格好の場となっている。



一志峡（津市美杉町）

【出典：美杉村村勢要覧 H14】

位置：津市美杉町
赤目一志峡県立公園に指定されており、雲出川の浸食によってつくられる溪谷美が、訪れる人を楽しませる。アユ、アマゴの溪流釣りでも有名である。

(3) 家城ライン

津市白山町家城地域の 3 km 程の溪谷をいう。淵が連なり、川面がエメラルド色に染まり変化に富んだ奇岩怪岩が鮮やかな溪谷美を織りなしている。



家城ライン（津市白山町）

位置：津市白山町

名松線家城駅南西 1km
雲出川中流の津市白山町家城地区を流れる延長約 3km を家城ラインと呼んでいる。狼ヶ瀬、瀬戸ヶ淵などの名所のほか、溪流釣りが楽しめ、キャンプに適した空き地も広がる。

(4) 布引の滝

布引の滝は、滝谷川の上流部に位置し、山の木々の間を縫うように流れている。新緑、紅葉と四季の彩りが鮮やかで、周辺はハイキングコースとして整備されている。



布引の滝（津市白山町）

【出典：白山町パンフレット】

位置：津市白山町 滝谷川上流
白山町青山高原の一角にある、段滝で、霧生滝、飛竜滝、大日滝から構成される 60m の滝。
周辺は、鮮やかな四季の彩りが楽しめるハイキングコースになっている。

2-3 河川にまつわる歴史・文化

雲出川は、山地から平地に出て乱流し、扇状地の形成をすると同時に、河口部付近に三角州を形成してきた。このようにして形成された平野部は、洪水のたびに流路と化し、土砂を堆積させるので当初は高度な土地利用は困難であった。

しかし、肥沃な平地は優良な農地となる可能性を秘めていることから、次第に開田が進み、同時に農地を守るために流路を固定するための築堤が行われた。

大正9年の地形図を見ると、現状より無堤部、開口部が多いが、大きな洪水でない限り安定した流路を維持できるような築堤が概略完成された。このような開口部は、かつて12ヶ所存在したが、沿川の土地利用計画や開発に伴い順次締め切られ、現在は6ヶ所の開口部が残されている。



図2-4 堤防築造年代区分図

(土木研究所資料「霞堤の現況調査報告書」より作成)

古文書等より雲出川の歴史をみると、その流れは現在とはかなり異にしている様である。

『勢陽五鈴遺響』によると、『須賀は砂石のことで、須が瀬は河流の瀬に居住する謂なり、民家157戸』とある。

それだけに須が瀬地区の水害の歴史は古いものがあると思われるがその記録はない。

ただ地名に「古里」というところがあり、おそらくここにあった集落が今の高橋などへ移転をしたものと思われる。雲出川はもと須が瀬地区の中南部を流れていたようで「古川」「馬渡り」という戦国の地名が残っており、洪水となるとこの低地が濁流と化し落合へ流れ注ぎ、さながら自然の大河を思わせるものがある。この流れが古雲出川であったと思われる。

雲出川の名は、煙が雲のように立ち込め、遠くから見ると雲が出ずる集落に思えた。そして、その集落を河口に持つ雲出地区から名付けられたらしい。また、源流の山並みに雲がわき出ている川だからという説もある。

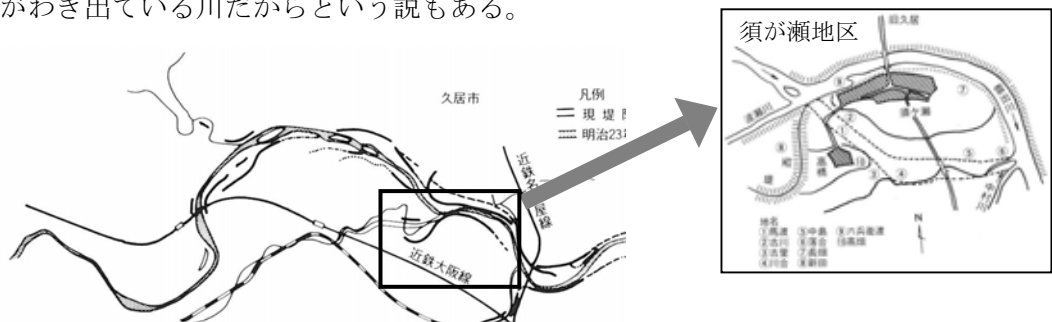


図2-5 雲出川の変遷図

(1) 雲出川にまつわる歴史・文化

①雲出川の渡し

○小野江の渡し

津市香良洲町の入り口で新川と雲出古川に分流する手前の津市島貫^{しまぬき}と松阪市三雲地区の須川を結んでいた。

現在は、雲出橋が架かっており、渡し船が往来していた頃に、旅人の安全を願って建てられた小野江常夜燈が残っている。



小野江常夜燈 （松阪市）

津市島貫と松阪市三雲地区の須川を結んでいた小野江の渡し。
現在では雲出橋が架り、橋のたもとのポケットパークに常夜灯、道を挟んで小野古江渡し跡の碑がある。

○雲出の渡し

津市木造^{こつくり}と松阪市嬉野川^{かわらこつくり}原木造との間に雲出川の渡しがあった。

江戸時代には京都、大阪からの参宮街道の裏街道として重要な渡しであった。江戸時代、この辺りは紀州藩と津藩の米、麦、木材、日常雑貨を載せた舟が雲出川を上下する集散地として栄えた。現在は、大正橋が架かっている。

○大仰の渡し

初瀬街道を通る旅人は、この大仰の渡しを使って伊勢へ向かった。また、伊勢神宮参りが盛んなところは大角や一志大仰の渡し場から旅人を乗せていた。

大正時代の終わり頃、大仰地区の小学校が舟で香良洲海岸まで遠足したといわれている。

現在、渡しがあった付近には大仰橋が架けられている。



大仰の渡し （津市一志町）

雲出川を渡る難所の一つで、延宝 5 年 (1675) 年に最初の橋が架けられた、出水のたびに流失するため、松板を並べた橋に架け替え、通行料を取っていた。橋が完成後も出水により、流失した際は、舟渡しに切り替えていた。

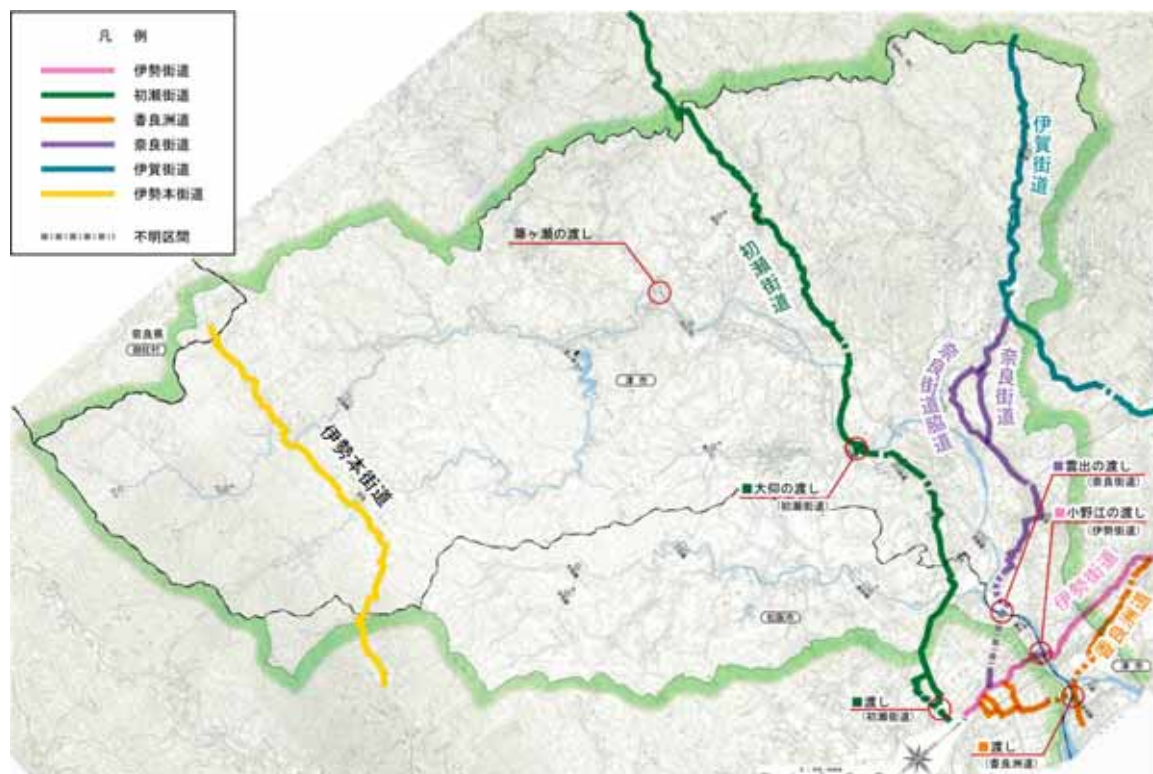


図 2-6 街道・渡し位置図

雲出川流域には、伊勢街道、伊賀街道、初瀬街道、伊勢本街道の 4 つの旧街道と伊勢街道と伊賀街道を結ぶ奈良街道、伊勢街道から分岐する香良洲道が通っており、伊勢参拝客らの旅人でおおいに賑わった。

京・大和方面と伊勢を結ぶ全長約 14 里（55km）の初瀬街道は松阪市六軒から、雲出川と平行して、大仰で雲出川を渡し、青山峠を越え、名張を経て初瀬へと到る。

また、初瀬街道は、青山峠から垣内^{あおやま}地内、二本木^{かいと}地内、大仰橋を渡し、中川^{なかがわ}地内を通り、雲出川流域を横断する街道であり、神社等が多く当時の面影を残している。

②雲出井頭首工

雲出川の治水、利水に尽くした郡奉行の西島八兵衛^{にしじまはちべえ}は、干害に苦しむ雲出村の農民を救い、雲出川流域が米所（一志米）として栄えるよう、1648 年に雲出井の用水路を開いた。このため、雲出井頭首工には流域の格別の思いが込められている。現在、雲出井頭首工の周辺には、雲出井頭首工竣工記念碑や雲出井頭首工を詠った詩が刻まれている碑が残っている。



雲出井頭首工（津市・津市一志町）

昭和 32 年から 3 ヶ年余かけて堰を改修し、その後、護床が沈下のため、昭和 57 年に蛇籠式からコンクリート式となった。

③瀬戸ヶ淵

瀬戸ヶ淵は、雲出川で一番川幅が狭いところで、雨期にはすぐあふれて水害を繰り返していた。これを防ぎ、筏の流れを良くするため、藤堂藩士山中為綱^{やまなかためつな}は、3年がかりでツチとノミで岩を削り、河床を広げ、1664年に完成させた。



瀬戸ヶ淵（津市白山町）

白い岩肌と青緑の透明感のある流れがみられる景勝地であり、雲出川の代表的な景観である。

④川口・杉ヶ瀬^{すぎがせ}

雲出川は白山から津藩への年貢納めや伊勢神宮参りの交通路となっており、舟による物資の輸送路として利用されていた。この水運の起点が津市白山町川口・杉ヶ瀬にあったとされ、炭の割木、茶などを河口まで運び、海藻類、塩などを持ち帰ったといわれており、当時の津市白山町は物資の集散所が設けられ栄えていた。

⑤鞆鼓踊り^{かんこ}

「鞆鼓踊り（かつこおどり）」がなまったもので、鞆鼓を持った踊りである。室町時代から伝承され、郷土芸能として発達し、旧盆（8月15日から18日）に各地域で行われており、無形文化財に指定されている。かんこ踊りは、神社の祭礼と関係が深い。祭りに奉納するという形、あるいは雨乞い、祖先の霊に感謝するために行われてきた。それぞれ、違った音頭と踊りを持っており、日本古来の風習が偲ばれる。



鞆鼓踊り（松阪市）

【提供：旧三雲町】

各地域で行われており、地域によって異なる。

笠松踊りと曾原踊りがあり、笠松地区では、毎年8月14～15日に松養寺・海雲寺の境内で行われる。

写真は笠松かんこ踊り。

⑥香良洲宮踊り

約350年前から伝わる伝統芸能で、毎年8月15日夜から16日にかけて行われる。

この伝統芸能は、香良洲神社にその年の豊漁豊作を祈願し、町民の親睦、慰安をはかるもので「風采踊り」ともいわれている。踊り子は、頭に鳥毛の“カブト”を着け、浴衣染めの襦袢、股引を着用し、足はわらじを履いて、肩からカンコを吊して、激しいリズムで踊る。三重県指定無形文化財指定されている。



香良洲宮踊り（津市香良洲町）

【出典：香良洲町町勢要覧H11】

約350年前から伝わる伝統芸能で、夜9時30分頃から、翌朝の午前中まで不眠不休で踊り続ける。

昭和45年2月25日に三重県指定無形文化財に指定されている。

⑦千本つき

千本つきは「千本杵」とも言われ、新しく造る堤防や家を建てるための置き土をたくさんの小棒で突き固めることを意味している。津市白山町の元取地区では、慶応2年（1866年）から行われており、氏神の祭り行事として新米を神社に奉納して五穀豊穡を祈願し、併せて家内安全、郷土の繁栄を祈っている。最後の一臼は天下餅といわれ、天に向かって突き上げる。自分の杵にたくさんの餅を付けると幸運を呼ぶと伝えられている。



千本つき（津市白山町）

【出典：白山町パンフレット】

毎年4月中旬に宇気比神社で行われる行事。男衆が棒状のキネで餅を高々と突き上げて豊作を祈願する。大勢で餅をつくのはめずらしく、縁起を担ぐ行事として喜ばれている。

(2) 雲出川にまつわる伝統

①忘れ井

場所：松阪市嬉野宮古町

口碑伝説によると、鳥羽天皇の天仁元年、侑子内親王一六歳にて伊勢神宮齋宮になられることになり、ご群行の時、宮は住みなれた花の都、九重の空を後にして懐かしき父母と別れ、まだうら若き御身一人で遠く伊勢の地に行かれるのを、心細く思った。天皇の代理として皇太神宮の祭主となられる身ながら、旅の道すがら別れ行くことを嘆かれた。こうして一志の駅家を過ぎるとき、渇きを覚えられたので、路傍の井戸に立ち寄られ水を求めようとした。ふと、その水面をのぞかれたとき、神々しい姿は消えて怪しい姿となって写ったので、宮は初めて今までの心の迷いを悟られて一首歌を読んだ。深く神に祈られて再び姿を映されると、今度は以前に変わらぬ姿となられたので、この井戸を“忘れ井”と名付けた。



忘れ井（松阪市）

忘れ井は松阪市嬉野宮古町と市場庄町の旧参宮街道の米ノ庄神社別れ道にあり、ともに「別れゆく都」を今に伝えている。

②かさつき地藏

場所：津市一志町大仰の大仰橋

真盛上人（幼名を宝珠丸という）が七歳のとき、出家されるについて、父母との別れを哀しみむずかかったので、父が一時の方便で大仰川に流せと怒り、真に受けた侍者が、宝珠丸を笠に乗せて権現淵に投げ込んだところ、不思議にも乗せた笠は逆流して大仰の上の淵の巨岩に漂着した。そこを通りかかった川口村光明寺の和尚が川中を



かさつき地藏（津市一志町）

岸壁に地藏菩薩の像が彫られており、土地の人は「かさつき地藏」と呼んでいる。また、道を挟んで迎えの大きな岩には、逆さに彫られた地藏菩薩があり、「さかさ地藏」と呼ばれている。

見ると、童子が笠に乗ったまま読経を続けていたので、これは阿陀のかりの姿であると喜び、拾い上げて寺で養育した。そこで漂着した巨岩に地藏尊を刻した。笠に乗っていたので「かさつき」といったという。

③こぶ湯

場所：津市白山町家城神社の裏手

こぶ湯の秘話はこの湯にまつわる悲しい物語である。

盧略部連枳筭喩（いほきべむらじきこゆ）というこの霊泉を守る湯人の棟領を務めていた人がいた。

雄略天皇の御代、阿閑臣国見（あべのおみくにみ）という者が、「枳筭喩の息子の武彦が、神宮に仕える斎の宮を妊娠させた。」という流言を飛ばした。

枳筭喩は、天皇のおとがめを恐れて、ある日、武彦を^{いほき}盧城川に連れていき、不意をおそって太刀で刺し殺してしまった。

やがて噂は天皇の耳に入り、問いただされた斎宮・拷幡（たくはた）皇女は、いたたまれず神鏡を抱いて^{いすず}五十鈴川の上流へと姿を消した。その後、五十鈴川の川上で、虹が蛇のように立ちのぼるのが見え、不思議に思って辺りを掘ると神鏡が出土し、さらに山中では皇女が命を絶っていた。

真偽を確かめようと皇女の腹を割いてみると、腹には水が溜まり、石ころがあるだけだったという。

それを聞いた枳筭喩は、息子を殺したことを悔やみ、流言を飛ばした国見を殺して大和の石上^{いそのかみ}神宮へと逃れたという。

この話は8世紀初頭にまとめられたといわれる日本書紀に記されており、武彦が討ちとられた場所を飛落首（ひひくび・場所は瀬戸ヶ淵の東）、太刀を洗った細流を太刀洗の水と伝えている。



こぶ湯（津市白山町）

家城神社の裏にあり、こぶの取れる霊泉「こぶ湯」と呼ばれ親しまれている。

最近、難病に効くとかぶ湯を求める人がたくさん訪れている。

2-4 河川環境に関わる地域の活動

雲出川流域に関連した活動としては、「君ヶ野ダム周辺環境保全協議会」の活動が代表として挙げられる。

君ヶ野ダム周辺の環境保全活動については、ダム完成当初から地域住民や各種団体による桜や紅葉などの植樹、草刈り、清掃等のボランティア活動により支えられてきた。また、地元自治会による「桜祭り」や走友会による「桜マラソン」などによりダム周辺環境を活用した交流活動が行われてきた。

近年、ダム周辺は桜の老木化や公園施設の老朽化により周辺環境が衰退しつつあることから、ダム周辺の環境保全活動により、周辺環境がさらにより良いものとなり、いつまでもすばらしい自然環境ときれいな水、こころ和ます桜が後の世代まで引き継がれることを目的として、平成16年9月に協議会が設立され、ワークショップや桜の植樹会などの活動が行われている。

2-5 自然公園等の指定状況

雲出川流域は、布引山脈から高見山地にかけての一带と、津市美杉町のほぼ全域及び松阪市嬉野地区の一部が国定公園・県立自然公園に指定されている。中・上流域内にはこれらの自然環境を活かして開けた観光地が多く見られ、青山高原はゴルフ場、別荘、キャンプ場等のレジャー施設が整っており、さらに、美しい溪谷・溪流が存在し県内外からの観光客で賑わう。下流域では、津市と津市香良洲町の臨海部も県立自然公園に指定されており、潮干狩りや海水浴場として多くの人に親しまれている。

また、流域内では9箇所が鳥獣保護区に指定されている。

表2-3 雲出川流域自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	主な観光資源	公園面積
室生赤目青山 国定公園	S45.12.28	名張市、津市、松阪 市、伊賀市	北畠神社、香落溪、 赤目四十八滝、 奥香肌峡、奥山愛宕 神社、霧山城跡、榊 原温泉、山岳景観	13,564ha
赤目一志峡県 立自然公園	S23.10.14	名張市、津市、松阪 市	雲出川上流溪谷、 一志峡、家城ライン、 君ヶ野ダム、美杉温 泉、山岳景観	22,043ha
伊勢の海県立 自然公園	S28.10.1	鈴鹿市、津市、河芸 町	千代橋、鼓ヶ浦、 阿漕浦、御殿場、香 良洲等海浜景観	782ha

第3章 流域の社会条件

3-1 人口

雲出川流域は、津市、松阪市及び奈良県御杖村の2市1村で構成されており、沿川市町村人口は約12万人（平成12年）となっている。雲出川下流域では、津方面の通勤圏の拡大とともに人口が増加している反面、上流山間部では、過疎化が進んでいる。

表3-1 雲出川沿川9市町村人口の変遷

単位：人

市町村名		平成2年	平成7年		平成12年		備考
		人口	人口	増減	人口	増減	
下流域	津市	17,812	19,265	1,453	19,841	576	高茶屋、雲出地区
	旧久居市 (現津市久居地区)	39,682	40,144	462	41,063	919	
	旧香良洲町 (現津市香良洲町)	5,563	5,448	-115	5,300	-148	
	旧三雲町 (現松阪市三雲地区)	953	982	29	990	8	舞出、甚目地区
中上流域	旧嬉野町 (現松阪市嬉野地区)	17,611	17,903	292	17,884	-19	
	旧一志町 (現津市一志町)	13,136	14,257	1,121	14,580	323	
	旧白山町 (現津市白山町)	15,253	14,479	-774	13,395	-1,084	
	旧美杉村 (現津市美杉町)	8,835	8,015	-820	7,158	-857	
	旧美里村 (現津市美里町)	4,521	4,478	-43	4,249	-229	
合計		123,366	124,971	1,605	124,460	-511	

【出典：国勢調査】

注)・奈良県御杖村は、上流山間部の一部のみであるため除外した。
・津市、旧三雲町は、流域関連の町丁・字地区のみ集計した。

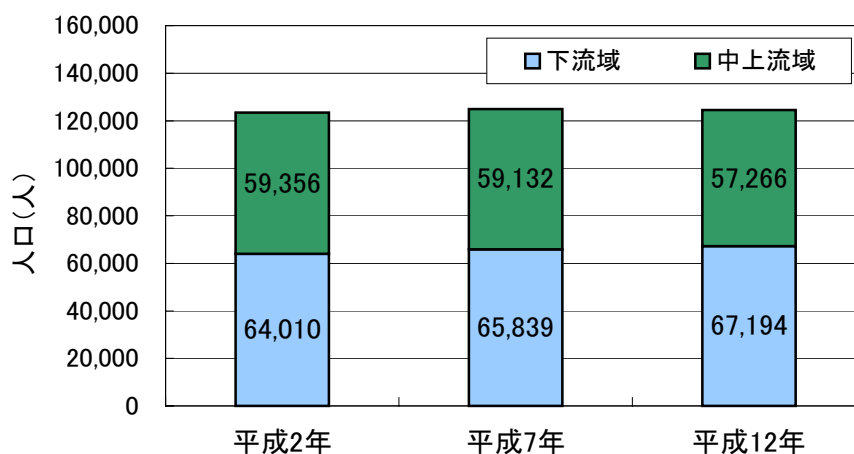


図3-1 沿川市町村人口の変遷

3-2 土地利用

雲出川流域内の土地利用状況は、山林が約 55%、農用地が約 34%、宅地等の市街地が約 11%となっている。

雲出川沿川市町村の土地利用状況を見ると、山林・原野の占める割合がほぼ 6 割程度となっている。経年的には、山林・原野や農用地の面積が減少し、宅地面積が増加傾向にある。

表 3-2 沿川地区の土地利用（民有地）面積の推移
(旧久居市、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美里村、美杉村の合計)

年 項目	S63		H5		H10		H15	
	面積 (km ²)	比率 (%)	面積 (km ²)	比率 (%)	面積 (km ²)	比率 (%)	面積 (km ²)	比率 (%)
農用地	72	24	69	23	66	22	63	21
宅地	15	5	17	6	18	6	19	6
山林・原野	203	67	197	65	190	64	184	62
その他	15	5	21	7	26	9	29	10
総面積	305		304		300		295	

【出典：三重県統計書】

注）・固定資産税課税に係る評価総地積（民有地面積）
・津市、御杖村、旧三雲町は流域に占める割合が小さいので除外した。

(グラフ内単位:Km²)

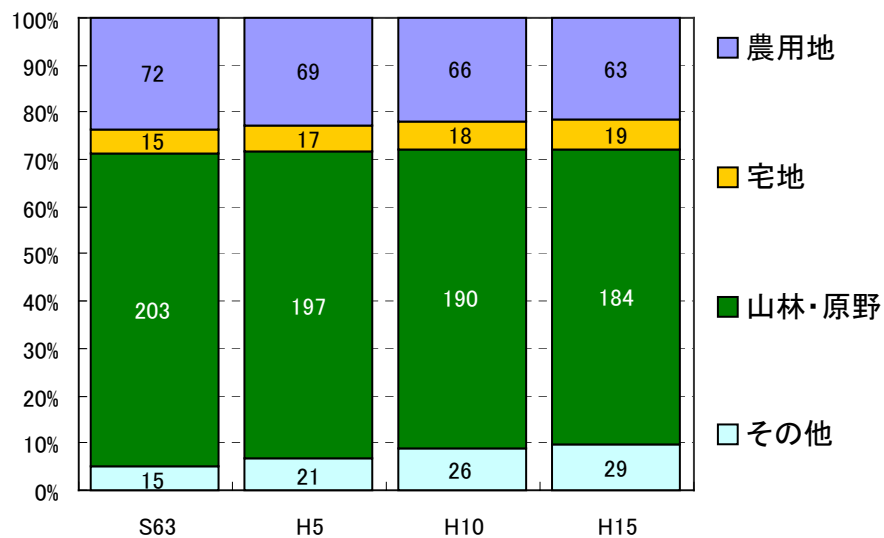


図 3-2 沿川地区の土地利用の変遷

(旧久居市、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美里村、美杉村の合計)

3-3 産業経済

雲出川流域の平野部では、津市一志町や松阪市一帯の稲作（一志米）を中心とする農業、山間部では、津市美杉町、津市白山町に広がる造林地に展開する林業等が盛んである。また、旧久居市の丘陵部や津市香良洲町では梨が生産されており、生産量は県内で旧久居市が最も多く、次いで旧香良洲町となっている。沿川地区の農業粗生産額は約 93 億円（平成 15 年三重県農林水産統計年報）である。

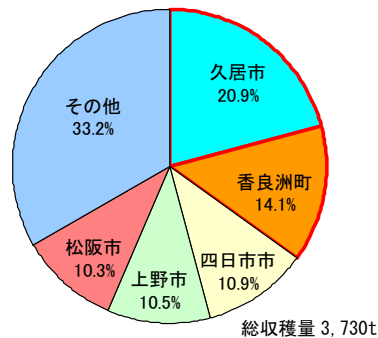


図 3-3 梨の収穫量（平成 15 年）

【出典：三重県統計書「作況調査」】

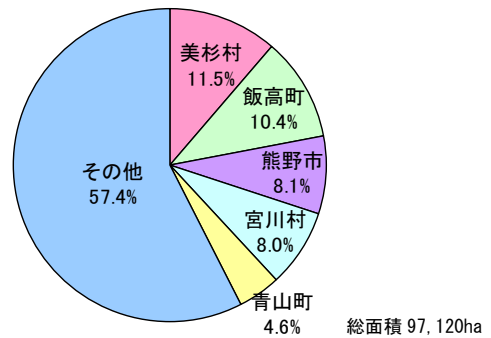


図 3-4 スギ林の面積

【出典：2000 年世界農林業センサス第 1 巻
三重県統計書「森林計画面積」】

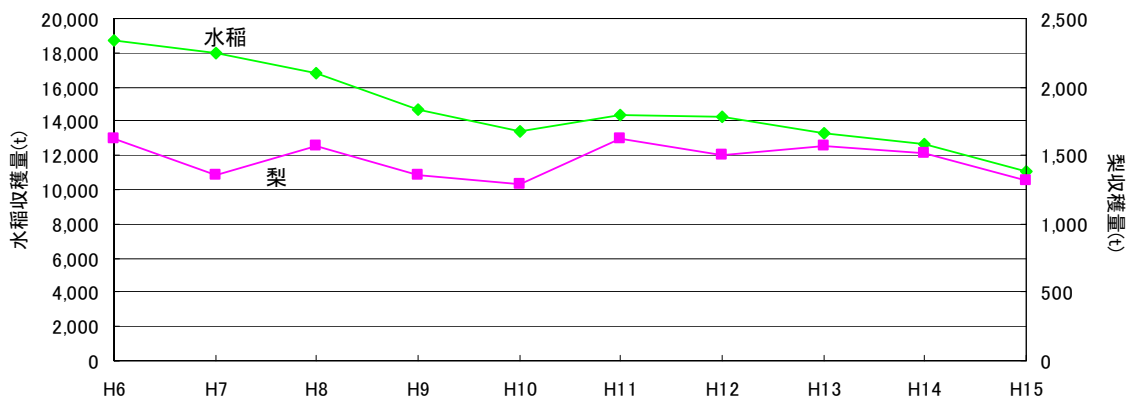


図 3-5 収穫量の推移

【出典：三重県統計書「作況調査」（旧久居市、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美里村、美杉村の合計）】



梨園

県内では最も収穫量が多く、品種は主に「幸水」「豊水」である。沿川市町（旧久居市、嬉野町、香良洲町）の収穫量は、約 1,500t 前後で安定している。



一志米

【出典：一志町町勢要覧 H7】

雲出川の清流と粘土質の土壌が良質の米を産出し、古くから一志米の産地として稲作が盛んに行なわれている。近年は作付面積の減少に伴い収穫量は減少しており、平成 15 年には約 11,100t（旧久居市、美里村、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美杉村の合計）。



美杉の林業

【出典：美杉村村勢要覧 H14】

良材として市場で高く評価され、県内外へ広く出荷されている。しかし、木材価格の低迷や需要構造の変化、労働力の高齢化等、安定的、効率的な林業経営が成り立ちにくい状況が続いている。

下流域では、津市久居地区や津市臨海部に工業団地が造成され、臨海部の造船業等の諸工業も盛んである。また、近年は津市一志町の矢頭中宮公園や津市香良洲町の緑のネットワーク整備など各市町村とも自然資源を活かした観光開発も進められている。

産業別の就業者数は、第2次産業の就業者が全国平均と比較して多く、第3次産業の就業者が少なくなっている。

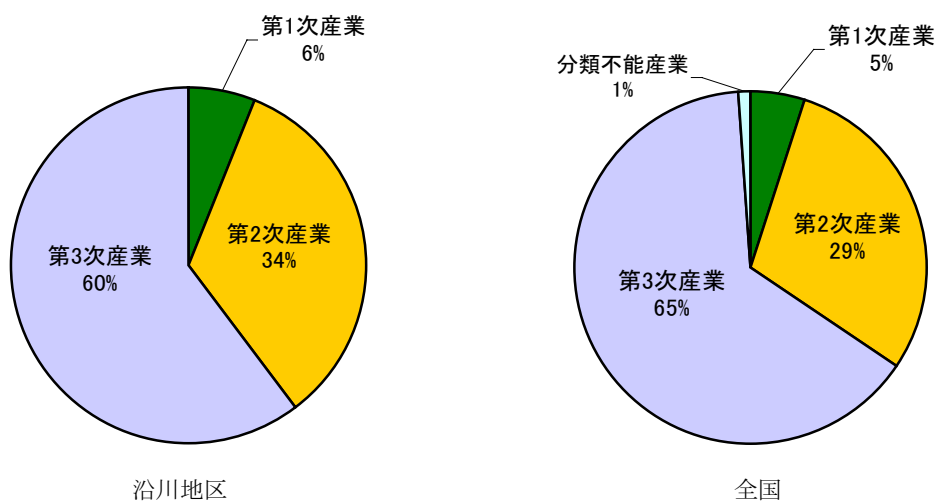


図 3-6 沿川地区の産業別就業者の構成比（平成 12 年国勢調査）

三重県は、クリスタルバレー構想に基づき、今後の成長産業である FPD 産業の企業誘致を進めており、雲出川流域内の津市久居地区においても「ニューファクトリーひさい工業団地」の整備が進められ、既に誘致された企業が FPD 用のガラス加工を行っている。

※クリスタルバレー構想とは「21 世紀の成長産業である液晶をはじめとする FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）産業の世界的集積を目指す」ものであり、新しい総合計画「三重県のくにづくり宣言」（平成 9 年）の「第二次実施計画（H14～H16）」で位置づけされているものである。

表 3-3 ニューファクトリーひさい工業団地の現状（平成 15 年 12 月現在）

分譲面積	団地総面積	約 940 千 m ²
	分譲総面積	約 470 千 m ²
	全体面積	約 17 千 m ² ～約 160 千 m ²
	平地面積	約 17 千 m ² ～約 160 千 m ²
企業数		3 社 (FPD 関連企業、他)
就業者数		140 名

ニューファクトリーひさい工業団地全景
【出典：三重県】

平成 12 年に第 1 期工事が完成し、平成 13 年 9 月 1 日分譲受付開始、優良企業の誘致に努めている。
6 区画あり、現在 3 区画が売却済みとなっている。



図 3-7 ニューファクトリー
ひさい工業団地位置図

雲出川流域では、三重県の県営事業として土地改良事業が実施されており、流域内で実施された 4 箇所の県営土地改良総合整備事業と 11 箇所の県営ほ場整備事業は、既に完了している。

表 3-4 土地改良事業一覧

	名称	事業年度(完了)		名称	事業年度(完了)
県営土地改良総合整備事業	1 三雲北部	S59～H7	県営ほ場整備事業	a 津南部	S55～H1
	2 嬉野東部	S63～H7		b そのむら 其村	H7～11
	3 嬉野西部	H5～11		c 一志	S38～45
	4 い 井生	H8～10		d とよち 豊地	S50～61
				e 中郷	S59～H9
				f 久居	S59～H7
				g 久居二期	S60～H6
				h 榊原	H3～11
				i 白山	S51～S61
				j 白山西部	S57～H2
				k 家城	S63～H8

【出典：三重県農業農村整備 三重県農林水産商工部】

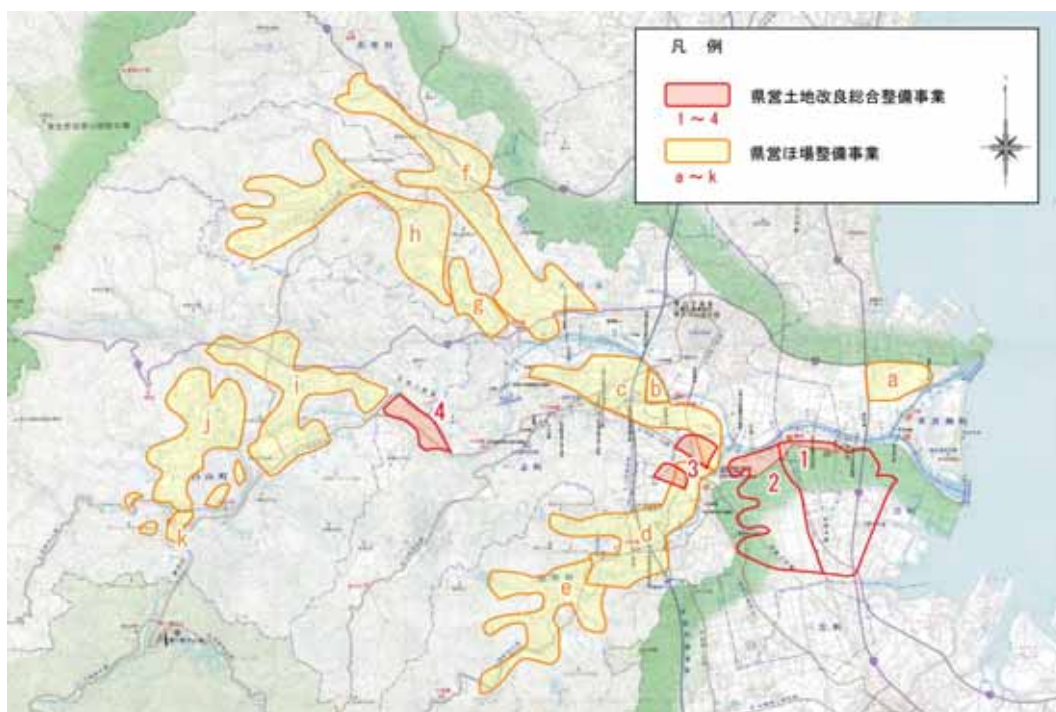


図 3-8 土地改良事業位置図

3-4 交通

雲出川流域は、古来より大和から伊勢を経て、伊勢ないし東国へ至る交通路にあっており、名張から布引山脈を越える街道は古くから伊勢参宮などに利用されていた。

雲出川の水運は、寛仁3年（1019）の皇太神宮遷宮に際し、川上から外院の桧皮と樽を出したことが見えており、この頃すでに水運が開けていたものと考えられる。

その後、雲出川の水運・舟運は昭和の初め頃まで続いていた。起点を川口・杉ヶ瀬に置き河口まで、上流からは木材、奥一志の特産物の茶等、下流からは塩、海藻類等の運搬に利用された。そして、伊勢参宮の参拝者にも利用された。その後、水運も時代の流れとともに陸上運送に変わり姿が見られなくなった。

現在、鉄道ではJR名松線と近鉄山田線が走っており、伊勢、名古屋、大阪方面とを結ぶ動脈となっている。

また、伊勢自動車道の開通により、人と物の流れが便利になったため、今後の発展が期待される。



図3-9 交通網図



図3-10 江戸時代中期の街道図

【出典：三重史 別編 絵図・地図】

第4章 水害の治水事業の沿革

4-1 主な洪水

雲出川における過去の洪水は、台風に起因するものが多く、破堤による氾濫等により人家や農作物等に多大な被害をもたらしてきた。

以下に雲出川の過去の主な洪水の一覧及び主要洪水の概要を示す。

表 4-1 過去の主な洪水と洪水被害

発生年月日	原因	流域平均 日雨量 (mm)	地点流量 (m³/s)	概要・被害等
明治 3 年(1870) 7 月 19 日 9 月 7 日 9 月 18 日				明治 3, 9, 18 年風水害、庄村・日置・其村・須ヶ瀬など大被害。(三重県史稿、庄村・日置・其村文書) 3 年は海岸堤防決壊、鶴村で死者 40 名。(鶴村水害史)
明治 13 年(1880) 8 月 25				大風雨にて出水、雲出川損亡代償 1,018 円。(三重県災害誌)
明治 18 年(1885) 7 月 1 日				大風水害、庄村・其村等被害甚大。(庄村区文書)
昭和 25 年(1950) 9 月 3 日	ジェーン台風			被害甚大
昭和 34 年(1959) 8 月 13 日	台風 7 号	223	約 2,600	(不明)
昭和 34 年(1959) 9 月 25 日	伊勢湾台風 (台風 15 号)	261	約 4,400	大仰橋地点のピーク流量 3,250m³/s (推算) を記録する。雲出川本川とも各所で破堤、流域全体にわたり被害。総雨量は川上 525mm、白山 470mm。 大仰橋地点でピーク水位 6.46m (既往最高) を記録。 床上浸水 943 戸、床下浸水 1,581 戸、全半壊 529 戸、浸水面積 2,531ha。
昭和 36 年(1961) 6 月 26 日	梅雨前線	234	約 2,700	(不明)
昭和 36 年(1961) 10 月 27 日	低気圧	268	約 3,000	(不明)
昭和 40 年(1965) 9 月 17 日	台風 24 号	193	約 3,200	大仰橋地点のピーク流量 2,037m³/s を記録する。雲出川本川左岸小戸木地区が破堤。家屋、農地に被害。 総雨量は川上 658mm、多気 463mm、宇気郷 447mm。 大仰橋・雲出川地点の水位は、それぞれ 6.70m、3.70m を記録。 床上浸水 23 戸、床下浸水 160 戸、全壊流出 1 戸、浸水面積 795ha。
昭和 46 年(1971) 8 月 30 日	台風 23 号	233	約 2,600	大仰橋地点のピーク流量 1,357m³/s を記録。 雲出川は大正橋流失、支川中村川破堤。 床上浸水 30 戸、床下浸水 754 戸、全壊流出 1 戸、浸水面積 1,656ha。
昭和 46 年(1971) 9 月 26 日	台風 29 号	189	約 2,900	支川波瀬川が破堤。総雨量は室の口 287mm、八太 260mm、白山 252mm。 大仰橋地点の水位 5.48m、流量 1,715m³/s、雲出橋地点の水位 4.40m を記録。 床上浸水 196 戸、床下浸水 2,562 戸、全壊流出 2 戸、浸水面積 1,121ha。
昭和 49 年(1974) 7 月 24 日	低気圧	303	約 3,900	大仰橋地点のピーク流量 1,962m³/s を記録。 総雨量は、多気 344mm、宇気郷 340mm、津 331mm。 大仰橋、雲出橋地点でそれぞれ 5.75m、5.29m の水位を記録。 床上浸水 48 戸、床下浸水 561 戸、全壊流出 8 戸、浸水面積 2,589ha。
昭和 51 年(1976) 9 月 8 日	前線	261	約 2,100	床上浸水 1 戸、床下浸水 102 戸、浸水面積 355ha。
昭和 57 年(1982) 8 月 1 日	台風 10 号	357	約 5,400	大仰橋地点で現行計画高水流量 2,700m³/s を超えるピーク流量 2,912m³/s、中村川の島田橋地点でピーク流量 1,014m³/s を記録。 大仰橋地点で、計画高水位を上廻る 6.70m の水位を記録。支川波瀬川・中村川も計画高水位を突破する。日雨量はいずれも既往最大を記録。 床上浸水 406 戸、床下浸水 928 戸、全半壊 92 戸、浸水面積 977ha。
平成 2 年(1990) 9 月 19 日	台風 14 号 前線	239	約 3,700	床上浸水 9 戸、床下浸水 43 戸、浸水面積 132ha。
平成 5 年(1993) 9 月 9 日	台風 14 号	166	約 3,600	大仰橋地点で 6.17m、波瀬川の下川原で 4.24m、中村川の島田橋で 4.31m の水位を記録。 総雨量は多気 192mm、宇気郷 170mm、川上 187mm。 床上浸水 38 戸、床下浸水 199 戸、全半壊 5 戸、浸水面積 272ha。
平成 6 年(1994) 9 月 30 日	台風 26 号	244	約 3,500	床下浸水 4 戸、浸水面積 9ha。
平成 16 年(2004) 9 月 29 日	前線 台風 21 号	238	約 4,800	大仰橋、島田橋地点で、計画高水位を超える 6.57m、4.28m の水位を記録。 総雨量は宇気郷 502mm、白山 354mm、津 440mm。 床上浸水 28 戸、床下浸水 92 戸、浸水面積 786ha。

注) 流域平均日雨量は雲出橋上流域
地点流量は雲出橋地点の洪水調節氾濫戻し流量
※全半壊：全壊、半壊、流失を全て含めた
※流量は洪水調節氾濫戻し流量
※被害状況については「水害統計（建設省）」の値を用いた（但し、昭和 34 年 9 月、40 年 9 月、平成 16 年 9 月洪

- ・ 昭和 34 年 9 月洪水 (台風 15 号・伊勢湾台風)

台風の接近により日本の南岸にあった前線の活動が活発になり、23 日昼頃から雨が降り始めた。三重県南部では 23 日夜中から 24 日夜中にかけて強く降り続いた。台風は 26 日 18 時過ぎ、潮岬の西およそ 15km の地点に上陸し、奈良・和歌山の県境、鈴鹿峠付近を通過、27 日 0 時には富山の東を通過して衰えをみせず勢力を保持したまま日本海へ抜けた。

三重県南部では 26 日昼頃から暴風雨圈に入り、台風の接近に伴い 1 時間雨量 40～60mm の強い雨が数時間降り続き、記録的な洪水となった。

雲出川本川の各所で破堤し、総雨量は川上 525mm、白山 470mm、大仰橋地点でピーク水位 6.46m（既往最高）を記録した。流域での洪水被害は、死者・行方不明者約 16 名、負傷者約 80 名、被災家屋約 3,100 棟に及んだ。



大正橋の落橋（一志郡嬉野町川原小造） 昭和34年9月洪水（伊勢湾台風）

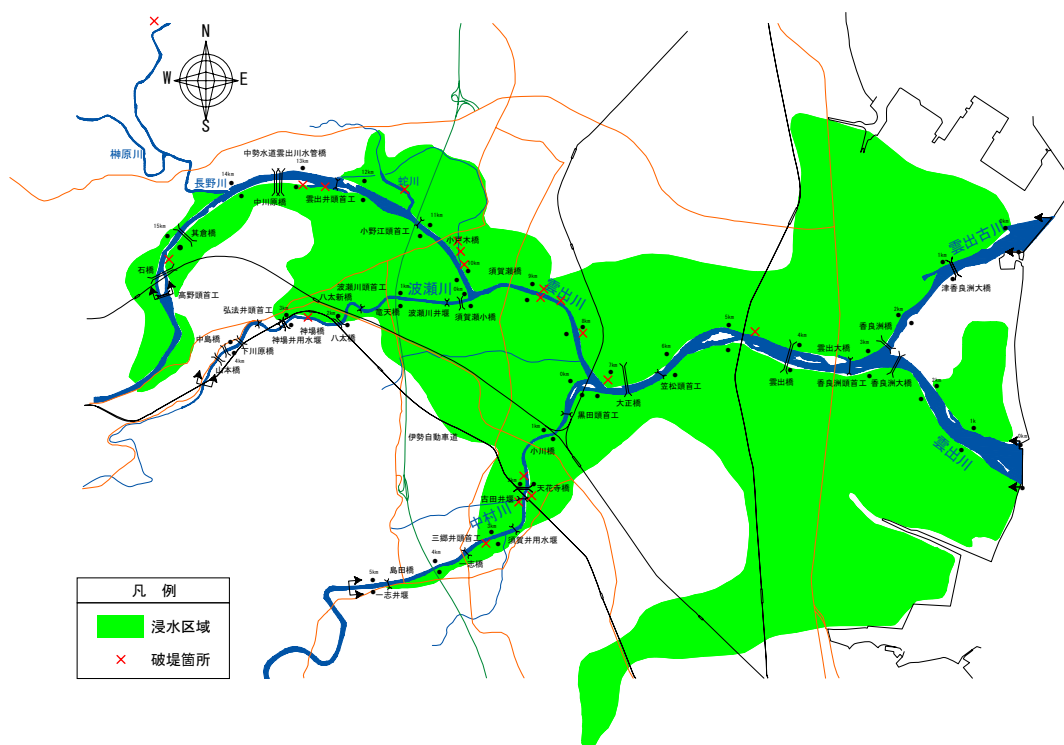


図 4-1 雲出川流域洪水被害図 (昭和 34 年 9 月洪水)

- ・ 昭和 46 年 8 月洪水（台風 23 号）

台風は九州佐多岬に上陸して東岸沿いに進み、四国を斜断し瀬戸内海に抜けた。台風の接近に伴い、雨は 30 日夜半には三重県全域に広がった。雲出川流域では 200～230 mm の多量の降雨があり、大仰橋地点のピーク流量は $1,357\text{m}^3/\text{s}$ を記録した。短時間に 380mm と多量の降雨であったため、災害が多く生じた。

流域内の被害は、大正橋の流失、支川中村川左岸 0.4km 付近、右岸 14.6km 付近が破堤し、死者 2 名、重・軽傷者 4 名、床上浸水 30 戸、床下浸水 754 戸、浸水面積 1,655.6ha に及んだ。



流失した大正橋 昭和 46 年 8 月洪水

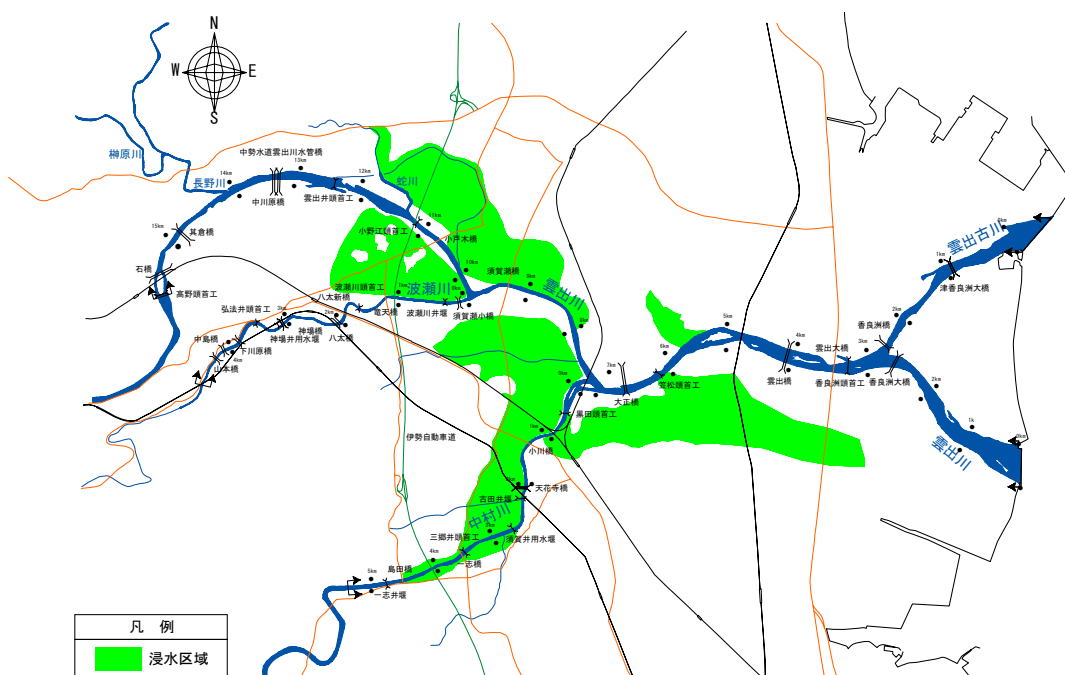


図 4-2 雲出川流域洪水被害図（昭和 46 年 8 月洪水）

- ・ 昭和 57 年 8 月洪水（台風 10 号）

台風 10 号は 2 日 0 時に渥美半島西部に上陸し、2 日 4 時頃富山湾に抜けた。

台風の接近に伴い、7 月 31 日から 8 月 2 日にかけて、総雨量は 807.5 mm、最大日雨量 722.5 mm、最大時間雨量 85 mm に達し、中村川上流の松阪市嬉野町上小川^{かみおがわ}と津市美杉町下之川^{しものがわ}の山中を中心に集中豪雨に見舞われた。また、現行計画高水流量 2,700 m³/s を超える 2,912 m³/s を大仰橋地点で、中村川の島田橋地点で 1,014 m³/s を記録し、水位も大仰橋地点で、計画高水位を上廻る 6.70m を記録した。

流域内では、津市美杉町で道路 483 件、橋関係 408 件、河川 404 件、砂防 88 件等、被災総額 208 億 9 千万円であり、中村川筋では河川損壊 57 カ所、橋損壊 8 カ所等、被災総額 91 億円の被害に及んだ。また、流域での洪水被害は、死者・行方不明者約 5 名、負傷者約 8 名、被災家屋約 1,400 棟であった。

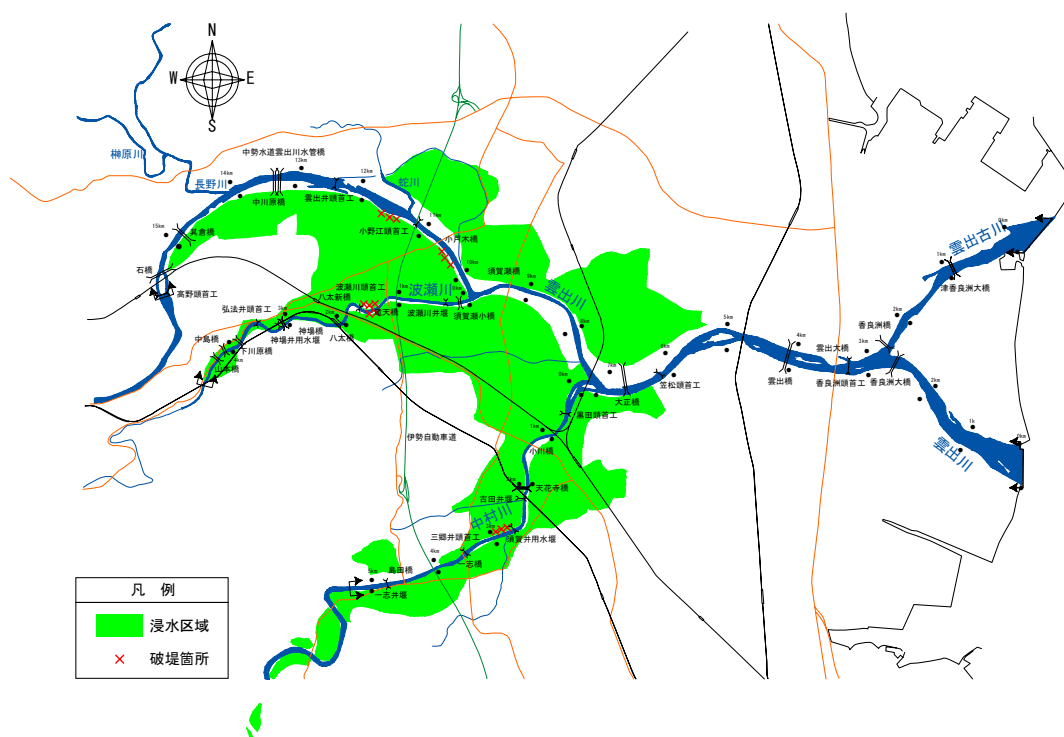


図 4-3 雲出川流域洪水被害図（昭和 57 年 8 月洪水）



一志団地破堤箇所災害状況 昭和 57 年洪水



一志浸水災害状況 昭和 57 年洪水



中村川井置橋被害状況 昭和 57 年洪水



雲出川橋被害状況 昭和 57 年洪水

- ・ 平成 16 年 9 月洪水（台風 21 号）

台風 21 号が九州付近に進み、本州付近に停滞していた前線が次第に北上、また日本の東海上には高気圧がありゆっくり東進していた。このため、三重県南部で積乱雲が発生、発達して三重県内を北に進んだ。

三重県では 28 日の 18 時過ぎから激しい雨を観測し始め、雲出川流域では宇気郷で総雨量 502mm を観測、津や白山でも日降水量の最大値を更新した。

激しい雨により、大仰、下川原橋、島田橋の各地点で計画高水位を越え、特に大仰地点では昭和 57 年に次ぐピーク水位 6.57m を記録した。

このため、中村川の三郷井用水堰が崩壊、流失したほか、各地で浸水被害が発生し、床上浸水 28 戸、床下浸水 92 戸、浸水面積 786ha に及んだ。



雲出川左岸8.4k
(下流から上流を望む)



中村川3.6k（三郷井頭首工）



図 4-4 雲出川流域洪水被害図（平成 16 年 9 月洪水）

4-2 治水事業の沿革

雲出川の下流域は、扇状地のため本川・支川とも蛇行が著しく、繰り返し洪水の被害を受けてきた。

記録を見ると大永2年（1552年）の大洪水に始まり、江戸時代には30回以上もの洪水被害に見舞われている。また、弘化3年（1846年）には、雲出川堤補修の記録が残っている。

明治に入り、三重県の治水条令に基づき改修が始まったが、水制工、護岸工を施すにとどまった。本格的な改修は、昭和26年から三重県によって砂防工事が、昭和31年に大正橋の計画高水流量を $4,200\text{m}^3/\text{s}$ として、中下流部の局部改良工事が始められた。しかし、雲出川流域は雨量が多く毎年のように災害を受け、特に昭和34年9月洪水（伊勢湾台風）では未曾有の大出水により、本川・支川とも大きな災害をうけた。

そのため、昭和36年から直轄改修に着手、昭和38年に総体計画を策定し、昭和41年には一級河川となり、雲出橋における基本高水のピーク流量を $5,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、上流ダムにより $500\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、計画高水流量を $4,500\text{m}^3/\text{s}$ とする工事実施基本計画を策定して引堤、護岸等の改修事業が始まった。

その後、昭和46年8月及び9月洪水、昭和49年7月の洪水で、破堤、氾濫を繰り返し、特に昭和57年8月洪水では、本川大仰地点及び、支川中村川島田橋地点で計画高水流量を上回り、大災害を被ったことと、氾濫区域の資産の一層の増加が予想されることから、昭和61年に工事実施基本計画が改正され、上流左岸一帯、右岸無堤地等の対策が進められている。

なお、工事実施基本計画に定められた、河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項は以下のとおりである。

雲出川の基本高水のピーク流量は主要な対象洪水として検討した結果、基準地点雲出橋において、 $8,000\text{m}^3/\text{s}$ とする。このうち、上流ダム群及び遊水池により $1,900\text{m}^3/\text{s}$ を調節することとし、河道への配分流量は $6,100\text{m}^3/\text{s}$ とする。更に、その下流で雲出川古川に $2,500\text{m}^3/\text{s}$ を分派し、香良洲において $3,600\text{m}^3/\text{s}$ とする。

支川では、中村川の基準高水のピーク流量は、基準地点小川橋において、 $1,400\text{m}^3/\text{s}$ とし、上流ダムで $300\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、計画高水流量を $1,100\text{m}^3/\text{s}$ とする。波瀬川の基準高水のピーク流量は、基準地点八太新橋において、 $580\text{m}^3/\text{s}$ とし、放水路で $110\text{m}^3/\text{s}$ 調節

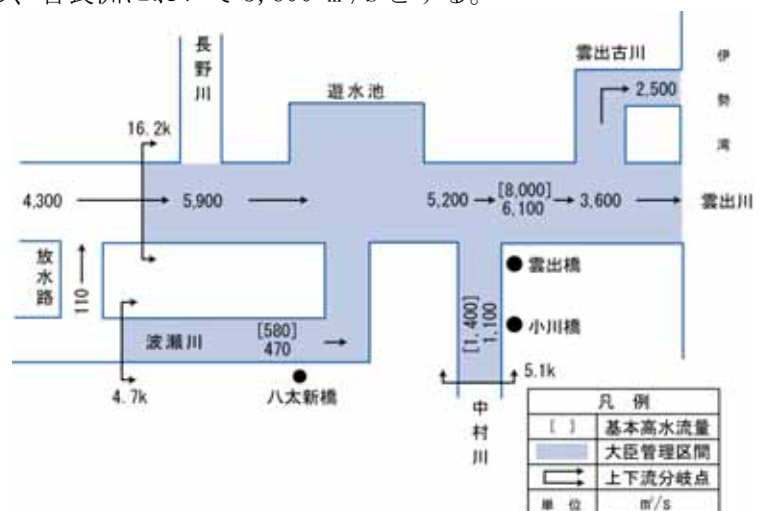


図4-5 計画高水流量配分図

し計画高水流量を $470\text{m}^3/\text{s}$ とした。また、上流部では三重県が昭和 40 年に本体工事に着手し、昭和 47 年に君ヶ野ダムを完成させた。

君ヶ野ダムは、洪水調節の他、農業用水・上水道用水・工業用水補給を目的とした多目的ダムである。

① 洪水調節

貯水池を利用してダム地点計画洪水量 $1,100\text{m}^3/\text{s}$ の内 $650\text{m}^3/\text{s}$ を洪水調節する。

② 農業用水補給

年間 480 万 m^3 を確保し、ダム下流の耕地約 3,000ha に不足用水として補給する。

③ 上水道用水補給

新規水源 66,000 m^3 /日を確保し、津市をはじめ、下流地区に補給する。

④ 工業用水補給

新規水源 54,000 m^3 /日を確保し、中勢工業地帯に要する工業用水に補給する。

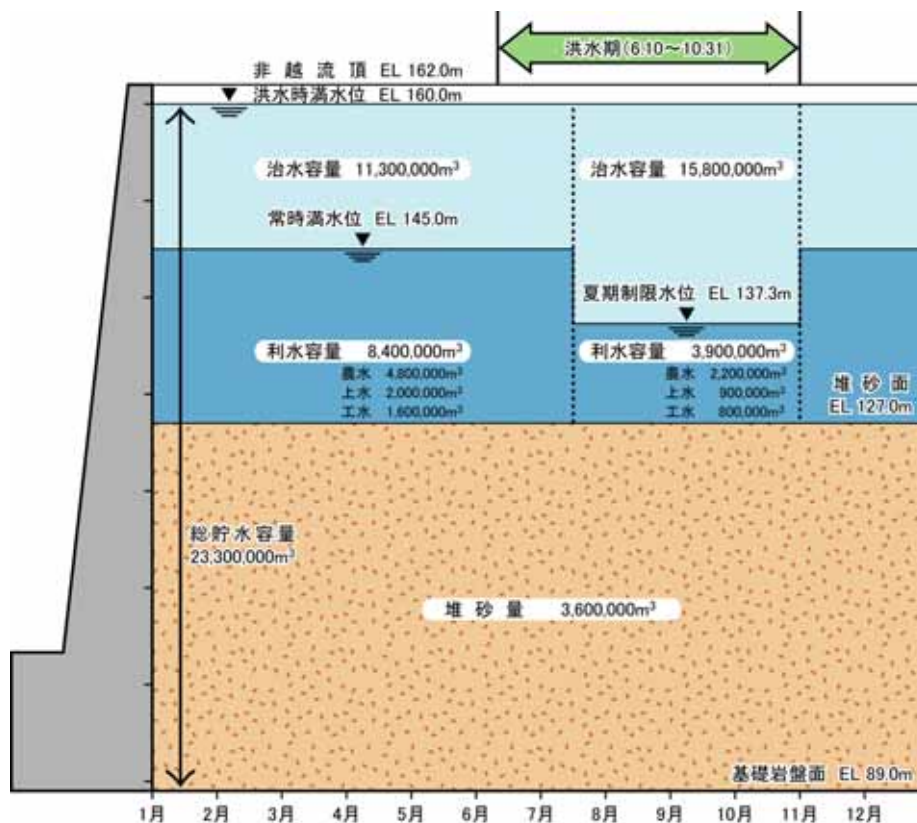
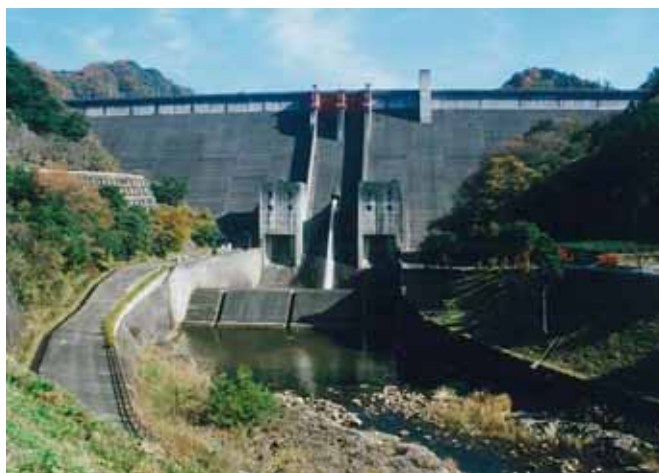


図 4-6 貯水池容量配分図

一方、河口部では、昭和 28 年の台風 13 号による高潮災害を受け、海岸災害防止事業として国が三重県から委託を受け高潮堤防を概成させた。また、昭和 34 年の伊勢湾台風を契機に、伊勢湾等高潮対策事業を三重県が実施し、昭和 38 年に高潮堤防が完成した。

表 4-2 ダム諸元

位置		三重県津市美杉町八手俣地内	
名称		君ヶ野ダム	
河川名		一級河川雲出川水系八手俣川	
型式		直線重力式越流型コンクリートダム	
ダム	貯水容量	総貯水容量	23,300,000 m ³
		有効貯水容量	19,700,000 m ³
	寸法	基盤高	E L 89.00 m
		堤高	73.00 m (提頂標高 E L 162.0 m)
		堤頂長	323.00 m
		堤頂幅	5.00 m
		敷幅	62.20 m
		堤体積	331,000 m ³
付属設備	貯水池引出設備	種別	構造
		農業	ホーロジェットバルブ φ 900 mm φ 250 mm
		上水道	ホーロジェットバルブ φ 900 mm
	洪水放流設備	工業用水道	ホーロジェットバルブ φ 900 mm
		クレストゲート (870 m ³ /s)	テンターゲート 高い 9.77 m × 巾 8.0 0m
		コンジットゲート (500 m ³ /s)	高圧圧着式ラジアルゲート 高い 3.20 m × 巾 3.2 0m (2 門)
		コースターゲート	ローラーゲート 高い 6.00m × 巾 6.00m (2 門)
		設計対象流量	設計洪水量 (100 年確率) 1,100 m ³ /s 異常洪水量 (20%増) 1,320 m ³ /s
	貯水池		君ヶ野湖
	集水面積		80.0 km ²



君ヶ野ダム

表 4-3 治水事業の沿革

西暦	年月日	記 事
1956	昭和 31 年	中・下流部の局部改修工事着手
1961	昭和 36 年	雲出川が直轄管理区間に指定 直轄区間 雲出川本川 0～15.8km 雲出古川 0～2.4 km 中村川 0～1.8 km 波瀬川 0～2.2 km
1963	昭和 38 年	直轄河川総体計画策定、高潮対策事業完成
1965	昭和 40 年	君ヶ野ダム建設事業に着手
1966	昭和 41 年	雲出川水系が一級河川に指定される 工事実施基本計画を決定 基本高水流量は基準地点雲出橋で 5,000 m ³ /s とし、このうち 500 m ³ /s を君ヶ野ダムで調整して河道へは 4,500 m ³ /s は配分、河口へは雲出川 2,600 m ³ /s、雲出古川に分派して 1,900 m ³ /s とした。支川では中村川 830 m ³ /s、波瀬川 275 m ³ /s としている。
1968	昭和 43 年	波瀬川築堤工事着手
1969	昭和 44 年	中村川築堤工事着手
1972	昭和 47 年 3 月	君ヶ野ダム完成
1974	昭和 49 年	直轄区域編入 中村川 1.8～5.1 km 波瀬川 2.2～4.7 km
1983	昭和 58 年	木造地区霞堤締切
1986	昭和 61 年	工事実施基本計画改正 基本高水流量は昭和 34 年 9 月、昭和 40 年 9 月、昭和 57 年 8 月等の洪水を対象洪水として検討した結果、基準地点雲出橋で、8,000 m ³ /s とした。上流ダム郡等により 1,900 m ³ /s を調整することとし、河道への配分流量は 6,100 m ³ /s とした。更に、その下流で雲出川古川に 2,500 m ³ /s を分派し、香良洲において 3,600 m ³ /s とした。 支川では、中村川の基準高水のピーク流量は、基準地点小川橋において、1,400 m ³ /s とし、波瀬川の基準高水のピーク流量は、基準地点八太新橋において、580 m ³ /s とした。
1991	平成 3 年	香良洲地区築堤（フロンティア堤防）着手（H11 完成）
1997	平成 9 年	中村川島田地区改修事業着手（H13 完成）
1999	平成 11 年	雲出川元町・須賀瀬地区河道掘削着手
2000	平成 12 年	牧地区の旧堤内地霞堤締切
2002	平成 14 年	近鉄中村川橋梁（短絡線）改築着手

第5章 河川水の利用の実施

5-1 水利用の現状

雲出川の豊かな水量は、古来より農業用水として利用され、中下流域の沖積平野における米の生産を支えてきた。「一志郡史」によれば、平安末期には須賀井が開起し、1483年に笠松井が造られている。その後、江戸時代に入ると、幕府の開墾の奨励で多くの堰が造られた。

雲出川の水利用の特徴は本川、支川とも多くの井堰が設置され、農業用水の占める割合が大きいことが挙げられる。流域の水利権に関わるかんがい区域は本川、支川で約4,400haにおよび、水利権量は合わせて約19.634 m³/sとなっている。

水道用水については、生活様式の変化や都市化の進展に伴い増加傾向にあり、津市に0.372m³/s、三重県に中勢水道として1.019 m³/sを供給している。工業用水については中伊勢工業用水道として0.625 m³/sを供給している。

さらに、上流指定区間内に大正11年に建設された中部電力の竹原発電所^{たけはら}があり、最大取水量1.110 m³/sを利用し、最大出力700kwの電力供給を行っている。

表5-1 雲出川水系の水利用状況

種別	法	件数	最大取水量 (m ³ /s)	備考
発電用水	許	1	1.110	竹原発電所
水道用水	許	5	1.4111	津市、三重県
工業用水	許	3	0.630	三重県他
農業用水	許	66	19.6344	かんがい面積 約4,400ha
	慣	194	—	
その他	許	5	0.239	
	慣	6	—	
合計	許	80	23.0245	
	慣	200	—	
	計	280	23.0245	

法：河川法第23条の許可を得たもの

慣：河川法施行前から存在する慣行水利

(出典：水利権台帳 H17.12現在)

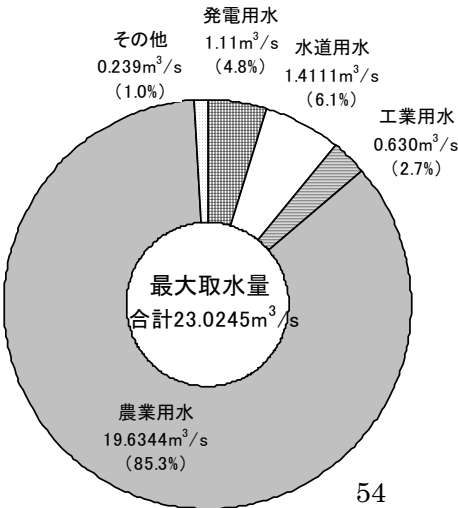


図5-1 雲出川水系の水利用状況
(許可水利権のみ)

(出典：水利権台帳)

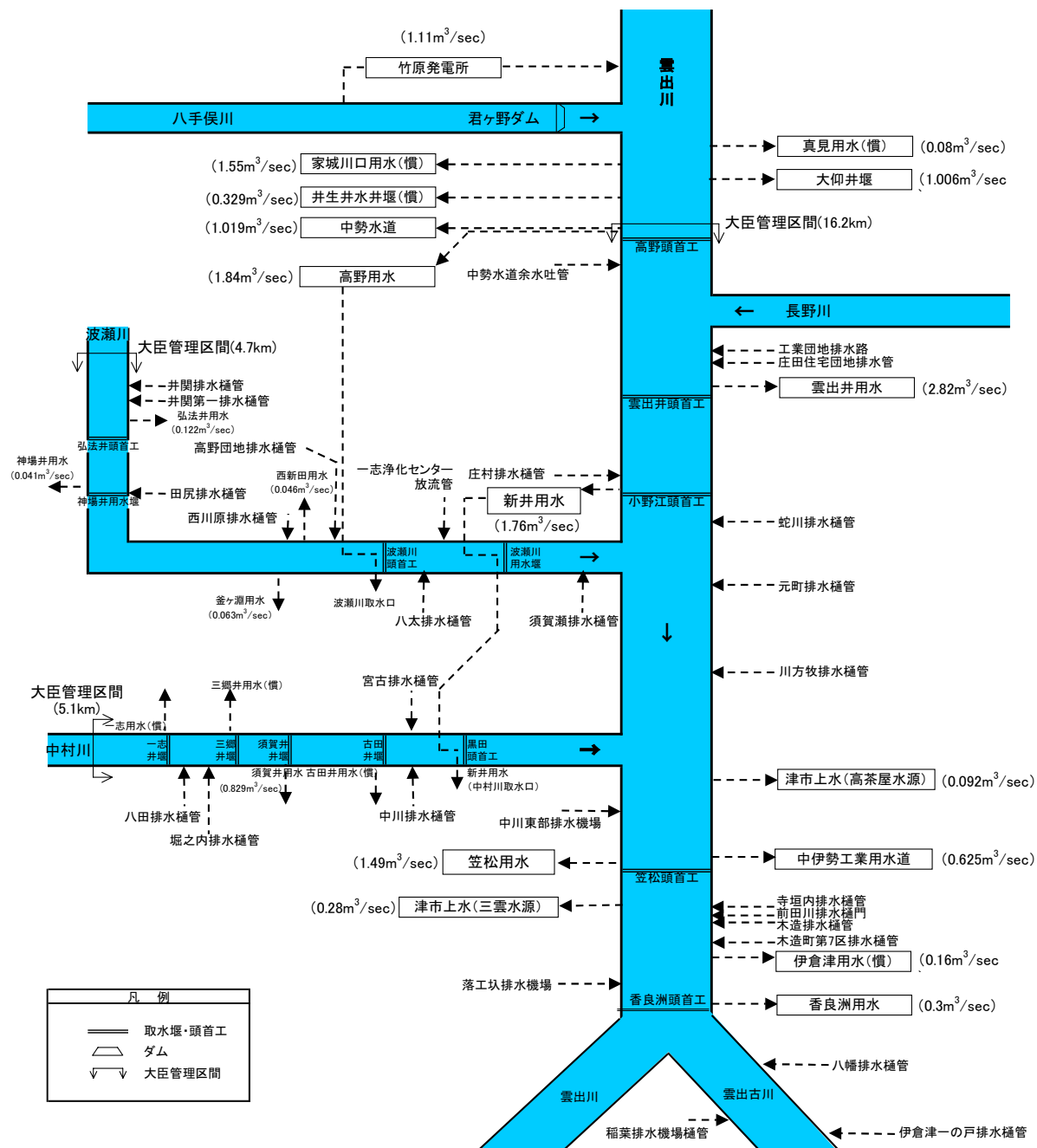
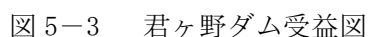


図 5-2 雲出川水系 取排水系統模式図 (主要な水利権を記載)

注) (慣) は慣行水利を示し、その他は許可水利を示す。

創設事業当初は、津市、旧久居市（現津市）、旧一志町（現津市）、旧嬉野町（現松阪市）、旧三雲町（現松阪市）を対象に、計画人口 227 千人、計画一日最大給水量 61,380m³として計画し、昭和 46 年から給水が開始されたが、給水地域の発展に伴う水需要の増加と、旧白山町（現津市）の事業参加のため、第一次拡張事業がなされ、計画人口 280 千人、計画一日最大給水量 81,416m³とし、昭和 56 年 4 月に全部給水されている。

給水対象	津市、松阪市
計画給水人口	280,000 人
計画最大取水量	88,000m ³ /日
計画最大給水量	81,416m ³ /日
給水開始	
創設事業給水開始	S46. 6
第一次拡張事業給水開始	S52. 9
全部給水	S56. 4



一方、平成 6 年は全国的な渇水として知られており、雲出川水系においても雲出川渇水調整協議会が 7 月 20 日～8 月 15 日の期間中設置されている。また、平成 7 年、平成 8 年、平成 12 年、平成 17 年にも渇水に見舞われた。

57

H6 年

年月日	君ヶ野ダム貯水量 千 m ³ (貯水率)	渇水対策の経過等
H6. 7. 15	3,635 (18.5%)	雲出川渇水調整協議会準備会 第1回雲出川渇水調整協議会 7月23日から第1次節水 (上水10%、工水・農水20%) 実施する 第1次節水緩和(自主節水) 第2回雲出川渇水調整協議会 8月12日から第2次節水 (上水15%、工水・農水30%) 実施する 降雨により節水解除
H6. 7. 20	3,179 (16.1%)	
	2,867 (14.6%)	
H6. 7. 26	3,109 (15.8%)	
H6. 8. 9	1,795 (9.1%)	
	1,268 (6.4%)	
H6. 8. 15	2,962 (15.0%)	

H12

年月日	君ヶ野ダム貯水量 千 m ³ (貯水率)	渇水対策の経過等
H12. 7. 26	1,757 (8.9%)	雲出川渇水調整協議会準備会 第1回雲出川渇水調整協議会 8月3日から第1次節水開始 (上水10%、工水・農水20%) 実施する
H12. 8. 2		
H12. 8. 3		
	1,108 (5.6%)	8月8日から第2次節水開始 (上水15%、工水・農水30%) 実施する
H12. 8. 9	740 (3.8%)	第2回雲出川渇水調整協議会 8月15日から第3次節水開始 (上水25%、工水35%、農水、50%(自主節水)) 実施する
H12. 8. 18	535 (2.7%)	第3回雲出川渇水調整協議会 8月19日から第4次節水開始 (上水30%、工水40%、農水、50%) 実施する
H12. 9. 11	2,540 (12.9%)	降雨により節水解除

第6章 河川流況と水質

6-1 河川流況

舞出地点における実績流況は表 6-1 に示すとおりであり、昭和 47 年～平成 15 年までの 32 年間の平均で、低水流量約 3.9m³/sec、渇水流量約 1.57m³/sec となっている。

表 6-1 舞出地点流況表（流域面積 536.4km²）

（単位：m³/s）

年		豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量	年平均
昭和47年		20.41	11.93	7.86	4.34	27.71
昭和48年		15.48	9.90	5.57	2.25	14.51
昭和49年		23.25	10.56	4.81	1.77	29.14
昭和50年		22.74	13.00	7.23	4.32	26.36
昭和51年		18.08	10.30	6.58	4.69	29.00
昭和52年		14.84	7.34	3.72	0.80	17.06
昭和53年		7.47	5.48	4.33	1.68	7.34
昭和54年		18.29	8.18	4.52	1.95	21.82
昭和55年		20.78	12.23	7.46	5.65	24.84
昭和56年		15.36	8.09	4.41	1.25	12.63
昭和57年		17.20	6.76	3.02	1.46	30.49
昭和58年		16.88	9.06	5.22	1.62	20.42
昭和59年		8.68	4.05	2.26	0.76	10.31
昭和60年		13.07	8.56	3.59	0.74	20.93
昭和61年		11.22	4.96	2.38	1.22	14.56
昭和62年		8.41	3.30	2.03	0.48	7.97
昭和63年		15.36	5.32	2.13	0.54	25.34
平成1年		24.41	10.90	3.56	1.73	32.35
平成2年		11.68	8.05	3.14	0.19	20.97
平成3年		22.74	10.23	7.31	3.85	19.47
平成4年		10.71	6.42	4.43	0.69	12.60
平成5年		19.07	7.48	3.70	0.30	19.38
平成6年		4.27	2.19	1.16	0.08	10.04
平成7年		10.22	1.73	0.81	0.08	12.31
平成8年		9.25	3.43	0.59	0.04	4.16
平成9年		14.66	11.38	1.60	0.30	20.47
平成10年		32.10	11.70	7.53	2.71	30.19
平成11年		12.48	6.48	2.51	1.20	14.41
平成12年		5.61	2.39	1.46	0.47	10.57
平成13年		15.19	8.10	3.07	1.08	16.53
平成14年		12.14	7.30	2.85	0.58	10.89
平成15年	欠測					
昭和47～平成 15年32ヶ年	平均	15.23	7.64	3.90	1.57	18.54
	最大	32.10	13.00	7.86	5.65	32.35
	最小	4.27	1.73	0.59	0.04	4.16
32ヶ年第3位		7.47	2.39	1.16	0.08	7.97

出典：流量年表（昭和 60 年、平成 3 年、平成 10 年は見直し値）

6-2 河川水質

(1) 水質の環境基準値

雲出川水系における水質保全の目標となる、水質汚濁に係わる環境基準の類型指定は図6-1に示すとおりである。

水域の範囲	類型	達成期間	基準地点	指定年月日
雲出川上流（両国橋より上流）	AA	イ	両国橋	S48. 3. 23
雲出川下流（両国橋より下流）	A	イ	雲出橋	S48. 3. 23
中村川全域	AA	イ	小川橋	H7. 3. 31
長野川（水源地より上流）	AA	イ	水源地	H11. 3. 30
長野川（水源地より下流）	A	イ	長野橋	H11. 3. 30



図6-1 雲出川環境基準値指定水域の範囲

(2) 水質の現状

雲出川水系の水質は、AA 類型である両国橋で平成 7、10～15 年、中村川の小川橋で平成 8、9 年に BOD が環境基準値を上回っているほかは、概ね環境基準を満しており良好な水質を保持している。

一方、大腸菌群数は各地点とも環境基準値を上回っている。

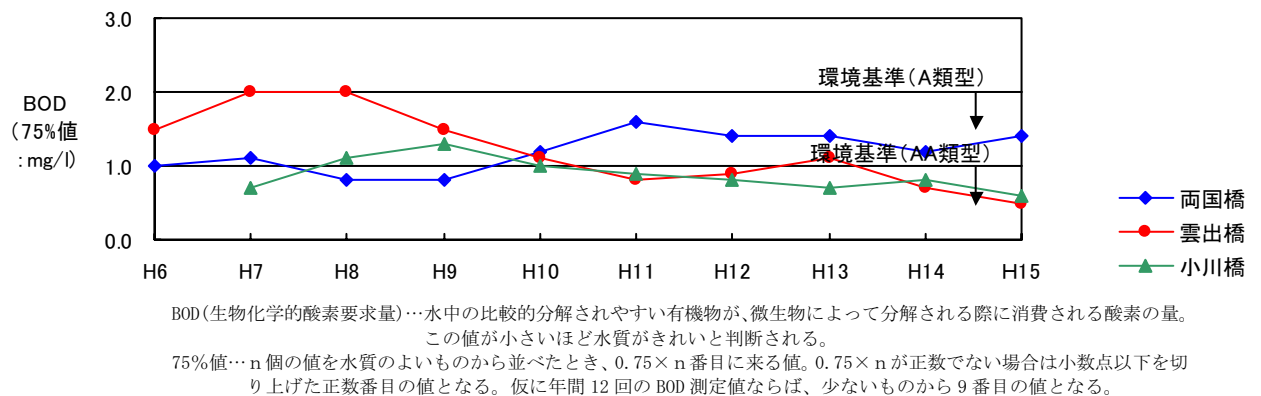


図 6-2 雲出川水質経年変化 (BOD)

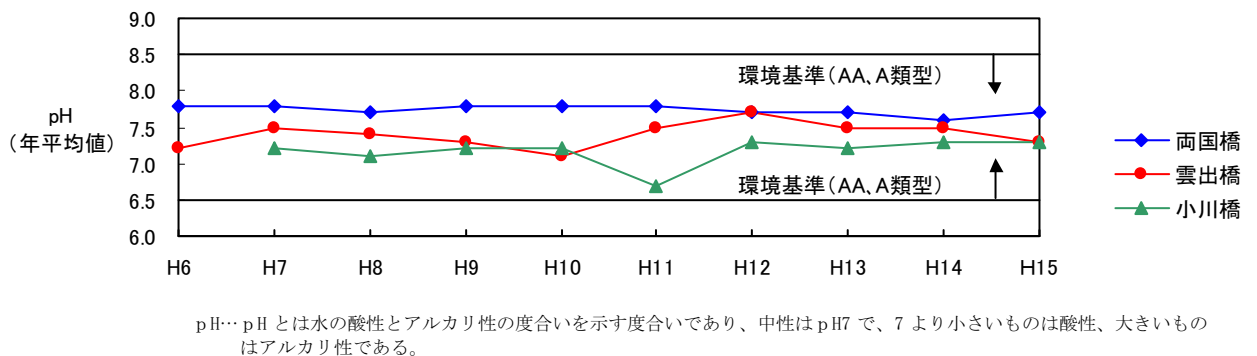


図 6-3 雲出川水質経年変化 (pH)

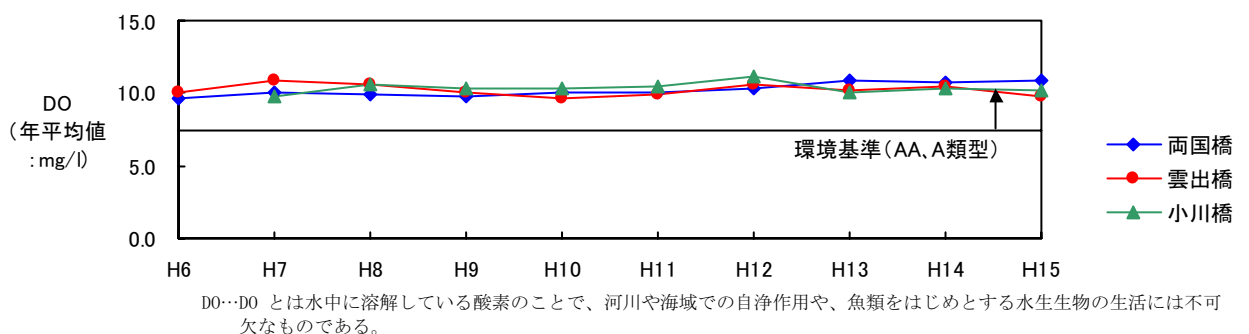


図 6-4 雲出川水質経年変化 (DO)

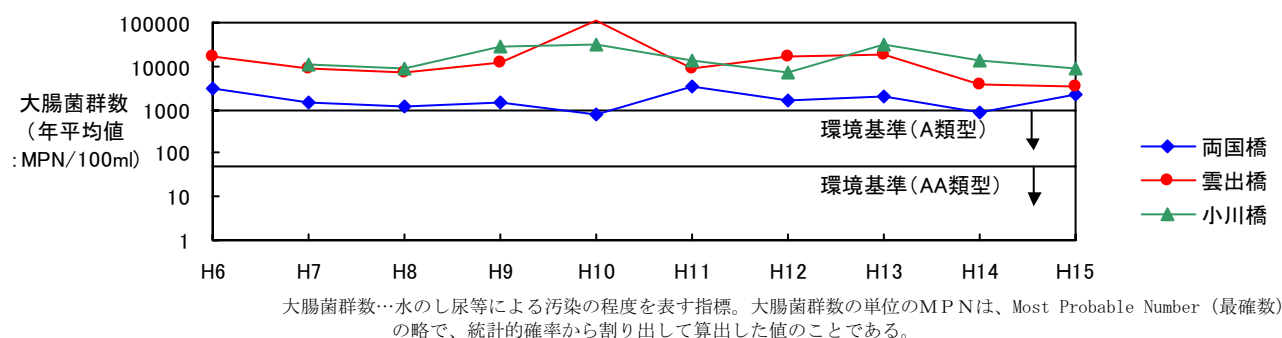


図 6-5 雲出川水質経年変化（大腸菌群数）

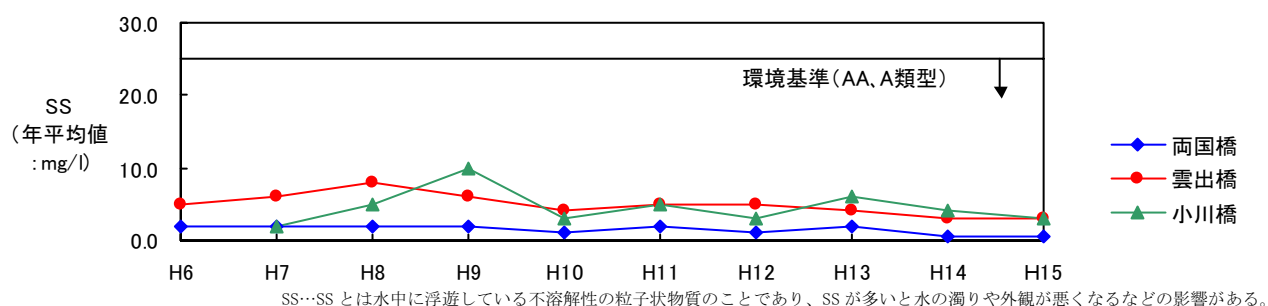


図 6-6 雲出川水質経年変化（SS）

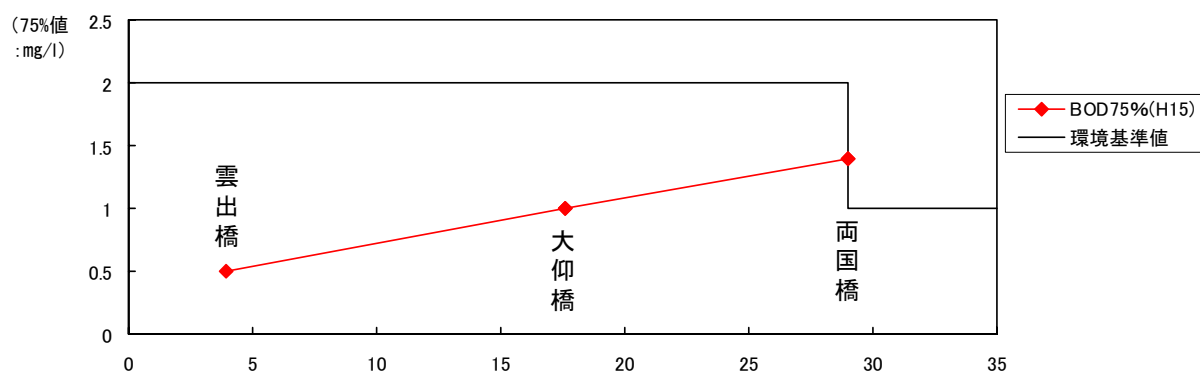


図 6-7 雲出川水質縦断変化 BOD75%値（H15 年度）

表 6-2 君ヶ野ダム貯水池内の水質（年平均）

項目	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	備考
水温 (°C)	21.10	14.93	15.07	14.39	14.43	15.44	15.13	15.44	15.13	13.56	各水質測定項目は、表層と中層の2層平均としている。
DO (mg/l)	7.41	7.50	7.38	7.48	7.71	7.74	7.69	7.60	7.62	7.80	
濁度 (度)	2.13	3.12	2.21	1.96	2.93	2.67	2.40	1.89	1.66	1.50	
pH	9.45	8.65	8.57	9.13	9.85	9.38	9.51	9.19	9.17	9.77	
SS (mg/l)	1.40	0.55	1.18	1.33	1.73	2.08	1.41	1.41	0.67	1.36	
COD (mg/l)	1.44	1.24	1.26	1.28	2.10	2.24	1.38	1.97	1.46	1.60	
BOD (mg/l)	3.11	2.66	1.89	1.76	3.23	5.92	1.77	3.07	2.13	1.28	
大腸菌 (MPN)	110.78	207.00	256.82	9.42	141.00	104.33	500.13	636.78	88.07	1986.83	
総窒素 (mg/l)	0.43	0.54	0.48	0.60	0.51	0.60	0.50	0.54	0.60	0.56	
総リン (mg/l)	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.05	0.02	0.02	0.02	0.04	
クロロフィルa (μg/l)	7.38	3.14	3.60	3.10	5.69	30.60	5.90	7.55	2.63	6.76	

第7章 河川空間の利用状況

7-1 河川敷の利用状況

① 高水敷の利用状況

雲出川の直轄区間は、河口から須賀瀬橋にかけて、主にレクリエーションの場としての河川敷整備がなされているが、須賀瀬橋より上流はほとんどが自然利用となっている。

また、指定区間の八手俣川にある君ヶ野ダムには、キャンプエリアやアーチェリー場等の施設が整備されており、宿泊施設も設けられている。

表7-1 河川利用施設の状況

河川名	距離表	右左岸	施設名	種類	施設面積 (ha)	管理者名	一般利用
雲出川	4.0km付近	左岸	野球場	運動場	0.5	津市	可
	5.2km付近	左岸	雲出川河川敷公園	公園	4.1	松阪市	可
	6.6km付近	左岸	雲出川緑地	公園	12.6	津市	可
	8.8km付近	右岸	ゲートボール場	運動場	0.5	津市	可
	11.0km付近	左岸	久居市牧草栽培地	その他	20.1	津市 酪農組合	不可
	11.2km付近	右岸	河川公園	公園	0.1	津市	可
	11.2km付近	右岸	河川公園	公園	0.4	津市	可
	12.2km付近	右岸	河川公園	公園	0.2	津市	可
中村川	1.0～2.0km付近	右岸	桜づつみ 中村川河川公園	桜並木園	0.5	松阪市	可
雲出古川	2.0km付近	右岸	西山公園	公園	1.3	津市	可



大正橋下流

12.6haと最も広い面積を有している雲出川緑地は、左岸の広い高水敷きを利用して野球場2面、ソフトボール場4面、テニスコート3面が整備されている。



大正橋付近

② 年間利用状況

平成 15 年度に実施された「河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）」における直轄管理区間での雲出川河川空間利用者数（推定）は、約 24 万人となっており、沿川市町村人口からみた 1 人当たりの年間利用回数は約 2 回となっている。

利用別形態では、水遊びが 49% と最も多く、次いで散策等が 29%、スポーツが 20%、釣りが共に 2% であり、護岸及び高水敷が整備された箇所では釣り、水遊び、散策等が多くなっている。

表 7-2 雲出川の河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ 	19	48		
	釣り 	21	5		
	水遊び 	287	116		
	散策等 	190	68		
	合計	517	237		



中村川 1.0～2.0k 右岸



雲出川 5.0～6.0k 右岸

河川利用の状況

7-2 河川の利用状況

雲出川上・中流部の津市美杉町から津市白山町にかけては、一志峡、亀ヶ広、家城ライン等があり、渓谷美を楽しむ景勝地として、また、釣り場やキャンプ場として利用されている。源流部の若宮八幡宮では、禊ぎの滝として古来より数多くの霊験を戴く神水とされている。

君ヶ野ダム周辺の桜並木は観光名所として有名で、レジャー施設も整っているほか、マラソン大会等のイベントも数多く開催されている。



アユ釣り

6月から8月にかけてはアユ釣りの人々で賑わう。



亀ヶ広

春には堤防に沿って植えられた桜が鮮やかに周りを彩る。



若宮八幡宮（津市美杉町）

約 1500 年前の履中天皇の時代の創建と伝えられる古社。雲出川水源のみそぎ滝は清浄にして、昔より万病の薬水、不老の長命水、物事成就の成功水等、数多くの霊験を戴く神水とされている。

下流部の直轄区間は広い高水敷を利用した公園、緑地等の施設利用が主体となっており、5.2km 付近の雲出川河川敷公園では、グラウンドやカヌー公園として整備されている。また、5.4～7.2 km付近は都市計画緑地として雲出川緑地（津市木造町）があり、テニスコートやソフトボール場、野球場、サイクリングロード約 1.6km が整備されている。

松阪市三雲地区では7月7日の七夕、雲出橋に笹を飾る笹飾りの行事が行われており、毎年大勢の人々で賑わっている。



カヌー大会

【出典：「川にゴミを捨てないようにしましょう」パンフレット】

ラブリバー公園では、夏が近づくとカヌー大会が開催される。



七夕笹飾り（松阪市三雲町）

七夕の時期に雲出橋で笹飾りを行っており、夏の風物詩となっている。

河口部では干潟が発達し、春から初夏のたて干しや潮干狩り、夏の海水浴、冬のシラス取りが雲出川の風物詩になっている。

派川雲出古川は、右岸に幅 20m程の高水敷が見られる。

また、支川中村川の小川橋上流には桜づつみが整備されており、桜並木に囲まれた明るい水辺が創出されている。



たて干し

遠浅の香良洲浦海岸は、たて干しや潮干狩りには絶好の場と知られている。



潮干狩り

潮干狩りシーズンである5月には5千人と1年で最も多くの観光客が訪れる。



海水浴

【出典：香良洲浦パンフレット】

白砂青松の地で、伊勢の海県立自然公園の一部となっており、夏には海水浴客で賑わう。

第8章 河道特性

雲出川水系は典型的な扇状形の流域を持つ河川であり、三重県と奈良県の県境、布引山脈の三峰山（標高 1,235m）にその源を発し、八手俣川等の支川を合わせて伊勢平野に至り、更に長野川、波瀬川及び中村川等の支川を合流し、2.5km 付近で本川と雲出古川を分流し、デルタ地帯を形成して、伊勢湾に注ぐ一級河川である。



雲出川本川河口部

三峰山を源に周囲の山々に寄って狭まれた典型的な扇状地であり、河口部で雲出古川と本川を分流してデルタ地帯を形成している。

雲出川の河口から香良洲頭首工付近までは、河床勾配が $1/10000$ 以下と緩い勾配でデルタ地帯を形成している。

河口から長野川合流点付近までの大部分は砂質であり、大正橋付近から上流は河床勾配が $1/1000$ 以上となっている。

長野川合流点付近から徐々に瀬と淵の区別が付きやすくなり、瀬では礫が見られるようになる。其倉橋付近より上流は河床勾配が $1/500$ 以上となり、淵、早瀬、平瀬が連続する典型的な中流部の流れとなる。藤川合流点付近より上流では岩盤の露出も見られるようになる。

八手俣川合流点付近からは河床勾配が $1/100$ 程度となり、蛇行した河道に瀬淵の連続が頻繁に現れ、上流部の流れへと変化する。



雲出川上流（三峰山）

河口から 54.5km 上流は坂本川となり、水源地である三峰山（標高 1,235m）から急峻な溪谷を蛇行しながら流下する。



雲出川本川中流（28km 付近）

白山台地を蛇行する 30km 付近から下流へ 6.8km は家城ラインと呼ばれており、狼ヶ瀬、瀬戸ヶ淵等の名所の岩場を抜ける。雲出川で最も川幅が狭く、奇石が突出しており、水しぶきを上げて流れる。



雲出川本川中流
（20km 付近）

なだらかな丘陵地形の三ヶ野川合流点付近は、河畔林が点在しており、岩場や砂礫地を緩やかに蛇行しながら流れる。



雲出川本川中流
（16km 付近）

高野頭首工より上流付近の背後地は山付と田園地帯となっており、両岸には樹林群が繁茂している。また山付きの樹林は枝が河道内に迫り出しており、魚付林の役割を果たしている。



雲出川本川下流（7～10km 付近）

中村川と波瀬川が合流する 7～10km 付近は庄田、中川原、其村、赤川、小戸木、牧の 6 箇所の霞堤が設けられている。また、牧の高水敷には、旧堤防が残されており、河道内遊水池となっている。



雲出川本川河口（0km 付近）

本川と雲出古川と分流し、三角州を形成している河口部では、干潟が形成されており、シギ・チドリ類の生息地となっている。

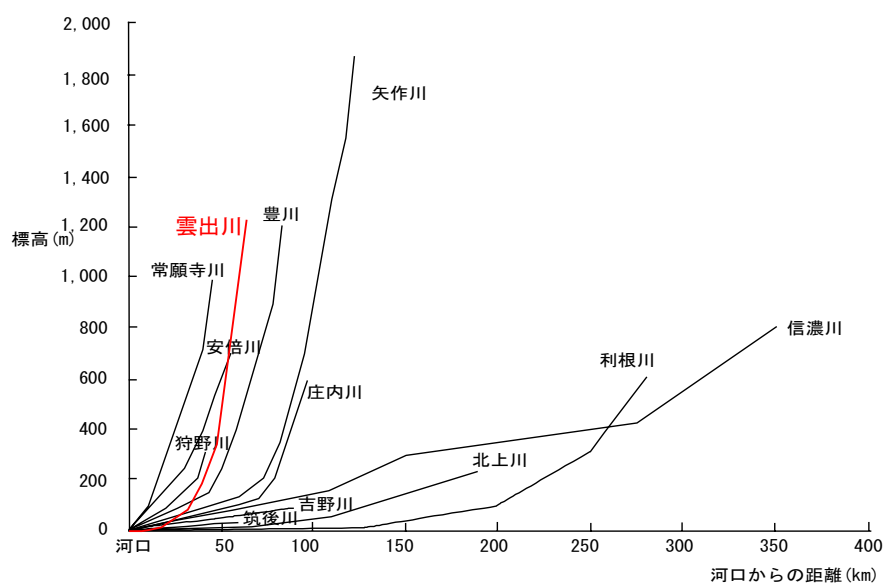


図 8-1 雲出川と他河川の縦断特性の比較

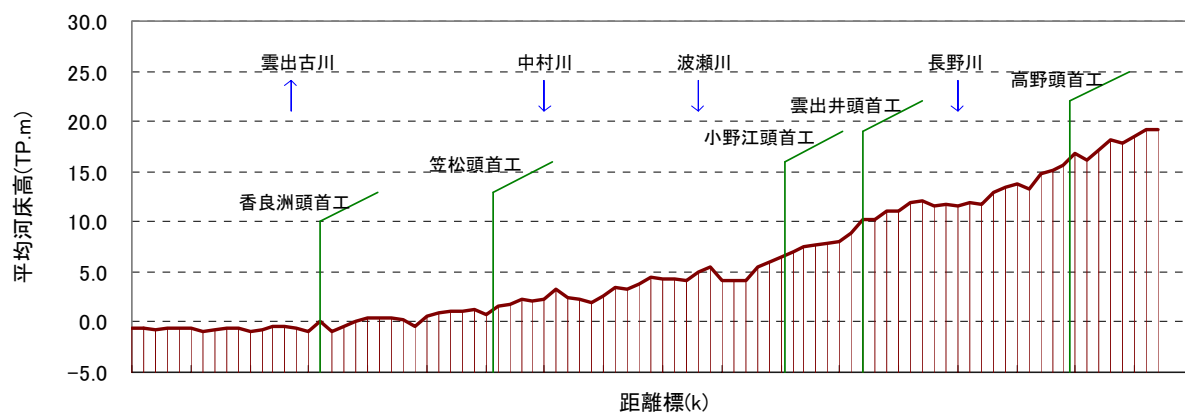


図 8-2 雲出川縦断図（大臣管理区間）

第9章 河川管理の現状

雲出川においては、洪水や高潮等による災害の発生を防止し、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から日々の河川管理を行っている。

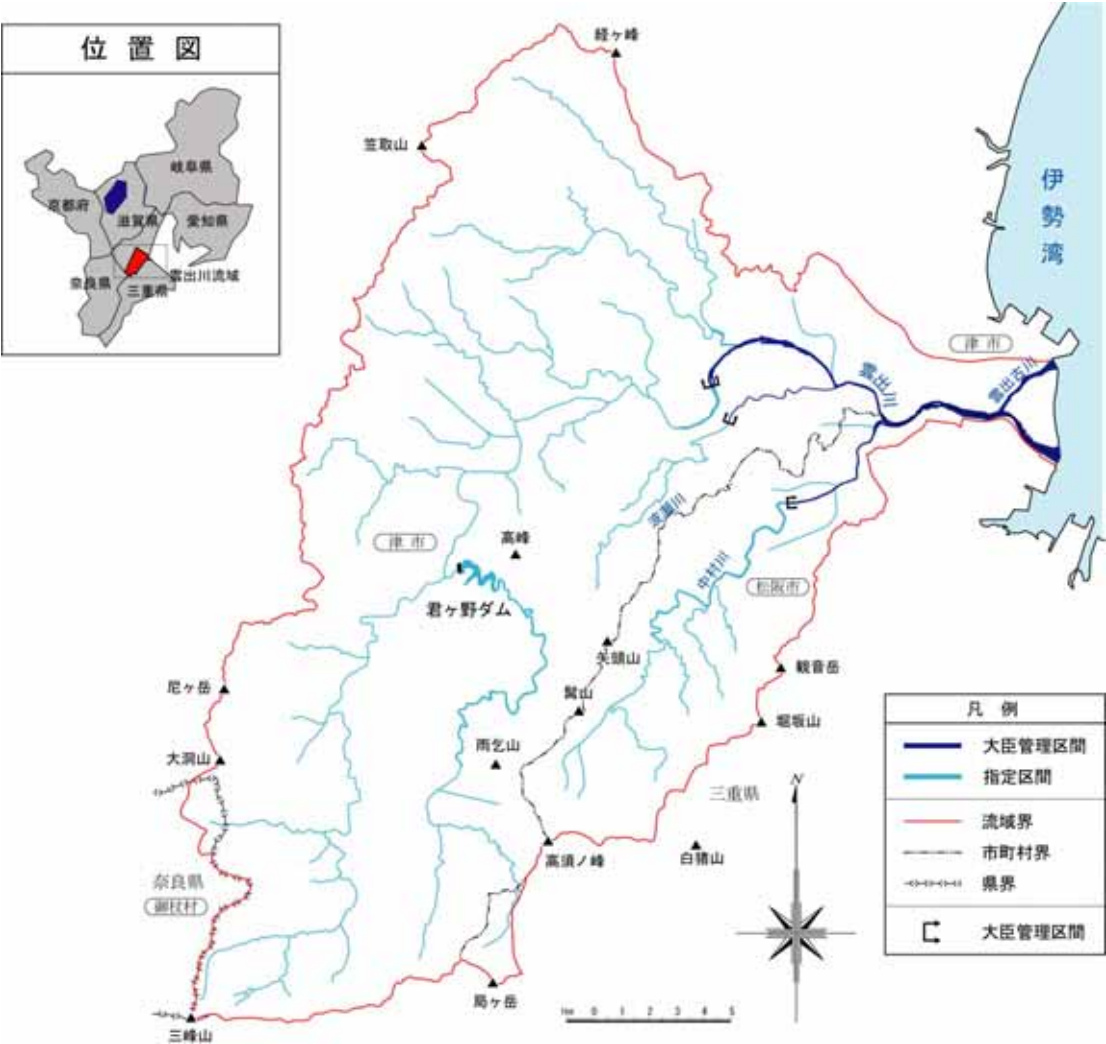


図9-1 雲出川管理区間概要図

表9-1 管理区間延長

管理者	河川名 (区間)	管理区間延長 (km)
国土交通省	雲出川 (0.0～16.2 km)	16.2
	中村川 (0.0～5.1 km)	5.1
	波瀬川 (0.0～4.7 km)	4.7
	雲出古川 (0.0～2.5 km)	2.5
	直轄管理区間合計	28.5
三重県	指定区間合計 (39 河川)	228.2
合計 (40 河川)		256.7

(平成 16 年 4 月末現在)

9-1 河川区域の現状

直轄管理区間の河川区域面積は以下のとおりであり、高水敷は概ね荒れ地が多い。高水敷のうち約 63.8% (1,144.0 千 m²) が官有地となっており、広い面積を有する場所にはグラウンドの整備が成され、沿川住民のレクリエーションの場として利用されている。

また、8km 付近は畑として、10～11km 付近及び 14～15km 付近は桑畑として利用されている。

表 9-2 直轄管理区間の管理区域面積（平成 14 年 4 月現在）（単位：千 m²）

	低水路(1号地)		堤防敷(2号地)		高水敷(3号地)		計	
	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地
管理区域面積	4,423.0	16.0	901.0	0.0	1,144.0	649.0	6,468.0	665.0
計	4,439.0		901.0		1,793		7,133.0	



雲出川 8.0～9.0k 右岸



雲出川 6.5k 左岸

高水敷の利用状況

9-2 河川管理施設の現状

雲出川の直轄管理区間における河川管理施設は、堤防護岸等の他、水門1ヶ所、堰、頭首工14ヶ所、樋門樋管44ヶ所、揚水機場12ヶ所などがあり、これらの河川管理施設の状況を把握し、適正な処置を講じるため、河川の巡視、点検を行っている。

表9-3 直轄管理区間堤防整備状況

単位：km

直轄管理 区間延長	施工令 2条7号 指定区間	堤 防 延 長						
		定期断面 堤防	暫 定	暫暫定	未施工 区間	小計	不必要 区 間	合計
28.5	0.0	28.0	13.3	0.9	6.3	48.5	6.5	55.0
比率 (%)		57.7	27.4	1.9	13.0	100.0	—	—

【平成17年3月末現在】

表9-4 河川管理施設一覧表（直轄管理区間）

種別	施設別	河川名	箇所数	計
水 門	直轄	中 村 川	1	1
	許可		—	—
樋 門 樋 管	直轄	雲 出 川	4	10
		中 村 川	2	
		波 瀬 川	2	
		雲 出 古 川	2	
	許可	雲 出 川	13	34
		中 村 川	8	
		波 瀬 川	11	
		雲 出 古 川	2	
揚排水機場	直轄		—	12
	許可	雲 出 川	7	
		中 村 川	1	
		波 瀬 川	3	
		雲 出 古 川	1	
堰	直轄		—	14
	許可	雲 出 川	5	
		中 村 川	5	
		波 瀬 川	4	
床 止 め	直轄	波 瀬 川	1	1
陸 閘	直轄	波 瀬 川	1	1

【平成16年8月現在】



大谷川水門

流入河川：大谷川
位 置：右岸2.87km
完成年度：昭和61年

9-3 許可工作物の現状

雲出川の直轄管理区間における許可工作物は、樋門樋管 34 ヶ所、揚排水機場 12 ヶ所、堰 14 ヶ所、横過トンネル 1 ヶ所、伏せ越し 3 ヶ所、橋梁 38 ヶ所、潜水橋 3 ヶ所の計 104 施設にのぼる（平成 16 年 8 月現在）。

各構造物については、河川管理施設同様の維持管理水準を確保するよう、各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

表 9-5 許可工作物一覧表（直轄管理区間）

施設名	数量	備考
樋 門 樋 管	34	雲出川13、中村川8、波瀬川11、雲出古川2
揚 排 水 機 場	12	雲出川7、中村川1、波瀬川3、雲出古川1
堰	14	雲出川5、中村川5、波瀬川4
横 過 ト ン ネ ル	2	中村川1、波瀬川1
伏 せ 越 し	3	波瀬川2、雲出古川1
橋 梁	39	雲出川15、中村川9、波瀬川13、雲出古川2
潜 水 橋	3	雲出川1、波瀬川2

【平成16年8月現在】



笠松頭首工

河 川 名：雲出川
位 置：6.225km
目 的：農業用水
完成年度：昭和 26 年



雲出井頭首工

河 川 名：雲出川
位 置：12.419km
目 的：農業用水
完成年度：昭和 35 年

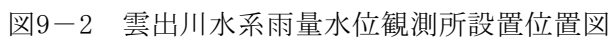


大正橋

河 川 名：雲出川
位 置：6.6km
完成年度：昭和 49 年

(1) 河川情報の概要

これらから得られる情報は、河川管理施設の操作、洪水時の水位予測等河川管理上また水防上重要なものであるため、常に最適の状態を観測を行えるよう保守点検・整備を実施している。また、必要なデータが迅速かつ正確に得られるよう、光ケーブル等の情報基盤を整備中である。



(2) 水防警報の概要

雲出本川、中村川、波瀬川、雲出古川では、洪水による災害が起こりうる可能性がある
と認められたときには、水防警報を発令し、水防団や近隣町村の関係機関と協力して
洪水被害の軽減に努めるよう体制を組んでいる。

(3) 洪水予報河川の指定

雲出川では、水防法第 10 条及び気象業務法第 14 条に基づき、平成 8 年度に洪水予報
指定河川に指定され、津气象台と共同で洪水予報・警報の発表を行い、周辺の住民への
適切な情報提供を実施するようになった。

表 9-6 雲出川水防対象観測所

【水防対象観測所】		
雲出橋水位観測所 [松阪市]		
危険水位：4.70m	警戒水位：3.70m	指定水位：3.00m
大仰水位観測所 [津市一志町]		
危険水位：5.35m	警戒水位：4.70m	指定水位：4.00m
下川原水位観測所 [津市一志町]		
特別警戒水位：2.30m	警戒水位：2.20m	指定水位：1.70m
島田橋水位観測所 [松阪市]		
特別警戒水位：2.50m	警戒水位：2.30m	指定水位：1.50m

9-5 危機管理への取り組み

(1) 水防連絡会との連携

雲出川では、洪水・高潮等による被害の発生を防止または軽減するため国及び地方地自体の関係機関が連携し、水防活動を迅速かつ円滑に行うための「雲出川水防連絡会」が結成されている。連絡会では、重要水防箇所等の河川巡視や水防資器材の整備、水防に関わる広報宣伝等を行っている。

表9-7 雲出川水防連絡会の構成機関

機 関 名	
国土交通省	三重河川国道事務所
三重県	県土整備部 津地方県民局 津建設部 " 久居建設部
津市	
松阪市	

(2) 渇水調整協議会との連携

雲出川では、渇水時における水利用の調整及び円滑なる実施方法について協議することを目的に、関係行政機関による「雲出川渇水調整協議会」を設置し、調整等を行っている。協議会では、水利使用の調整時期及び方法、水利使用の実態把握、実施及び連絡体制の実施、その他合理的水利使用の推進等を行っている。

表9-8 雲出川渇水調整協議会の構成機関

機 関 名	
国土交通省	河川部
中部地方整備局	三重河川国道事務所
三重県	地域振興部 農林水産商工部 県土整備部 津地方県民局 久居建設部
三重県企業庁	
津市	
雲出川土地改良区連合	

(3) 水質事故対策の実施

① 水質事故の実態

雲出川水系の近年 10 ヶ年における水質事故の発生状況は表 9-9 のとおりである。

雲出川では、事故による油の流出が最も多く発生しているほか、家庭雑排水の油混入と思われる事故もしばしば発生している。

表 9-9 雲出川における水質事故の発生状況

年	水質事故の種類				計
	事故による油流出	粘土	化学物質	魚類のへい死	
平成 6	0	0	0	0	0
平成 7	0	0	0	0	0
平成 8	0	0	0	0	0
平成 9	0	0	0	0	0
平成10	2	0	0	0	2
平成11	1	0	0	0	1
平成12	3	1	0	0	4
平成13	5	0	1	0	6
平成14	5	0	1	0	6
平成15	4	0	0	5	9
合計	20	1	2	5	28

② 水質汚濁対策連絡協議会との連携

雲出川では、三重四水共通で河川及び水路に関わる水質汚濁対策に関する各関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に、「三重四水系水質汚濁対策連絡協議会」を設置し、水質の監視や水質事故発生防止に努めている。協議会では、水質の常時観測や資料収集、緊急時の連絡調整、水質汚濁対策の推進、水質に関する知識の普及・広報活動等を図っている。

表 9-10 三重四水系水質汚濁対策連絡協議会の構成機関（雲出川関係分）

機 関 名
国土交通省中部地方整備局 中部経済産業局 三重県 津市 松阪市

(4) 洪水危機管理への取り組み

周辺住民の洪水に対する知識・意識を高めることを目的として、浸水想定区域の指定・公表を行い、自分の住んでいる地域の洪水氾濫による浸水の可能性と浸水の程度について情報提供を行っている。

津市香良洲町では、平成 9 年 10 月に洪水ハザードマップを作成公表するとともに、地震や洪水時のような非常時に防災活動を素早く行うことのできる河川防災ステーションを整備して防災活動の拠点づくりに取り組んでいる。津市においても洪水ハザードマップが平成 14 年 4 月に公表されている。今後、雲出川では、沿川の自治体と共同で洪水ハザードマップを作成していき、順次公表できるよう進めていく。

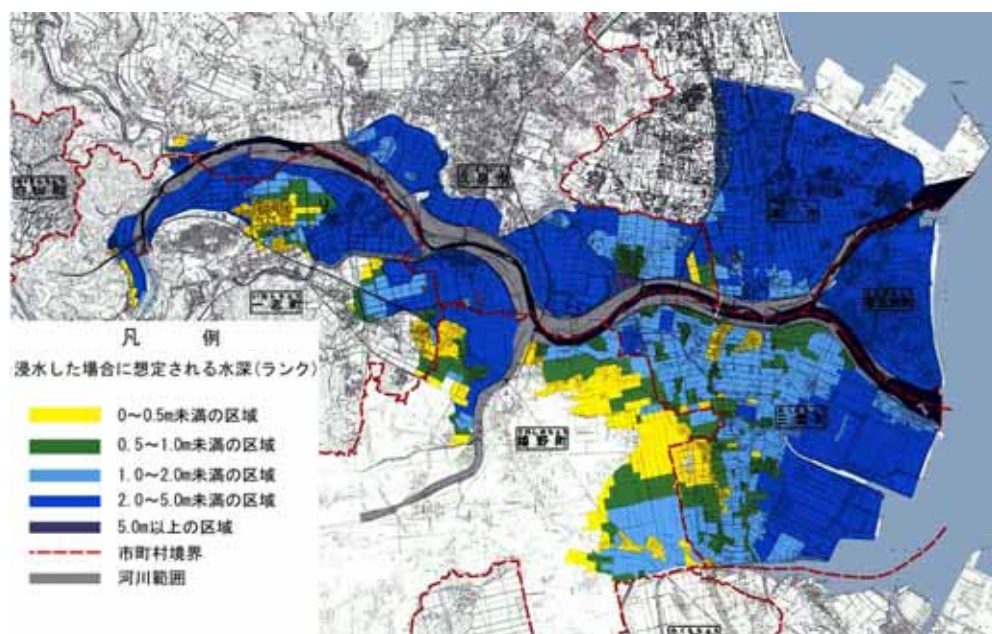


図 9-3 雲出川 浸水想定区域図

【出典：三重河川国道事務所HP】

想定氾濫区域における面積、人口等は次のとおりである。

表 9-11 想定氾濫区域の諸元

面 積	人 口	資 産 額
59km ²	41,000人	約6,600億円

(5) 地震等の対策の取り組み

警戒宣言が発令されたとき、河川管理施設及び許可工作物に関する情報連絡体制を整えると同時に、事前点検及び資機材配備等の確認を行い、地震発生時における敏速かつ確実な災害応急対策のための準備を図る。

9-6 地域との連携

雲出川では、広い高水敷のオープンスペースを活用するためグラウンド等が整備されており、スポーツや防災訓練の場として利用されている。また、自然に親しめるように整備されたキャンプ場や公園等があり、アユ釣りやカヌー等地域住民のいこいの場として利用されている。

また、雲出川を含む河川、海岸の環境保全の取り組みとして、地域住民と協働した管理を目指す「川と海のクリーン大作戦」を実施している。

流域市町村である津市、松阪市、旧久居地市、旧香良洲町、旧三雲町、旧嬉野町、旧一志町、旧白山町、旧美杉村、旧美里村の10市町村は“雲出の流域は一つ”をテーマに、「雲出川流域を考える会」を平成3年に設置し、シンポジウム「河川文化講演会」の開催、雲出川の環境・地域活性化のビデオ作成等を行い、生活に係わり深い雲出川を再認識し、安全、快適で、調和のとれた地域づくりをめざした活動を展開していた。



川と海のクリーン大作戦

久居青年会議所では、「広域的なまちづくりを目指す運動」の一つとして、川の浄化、環境問題への警鐘、ふるさとの川“雲出川”への愛着と地域連帯感の強化を主旨に、君ヶ野ダム公園での「水辺のコンサート」の実施や、環境標語の募集などの活動を展開し、雲出川の大切さを呼びかけている。また、4月29日を「雲出川の日」として、雲出川への意識向上のため、平成6年から河川敷を利用した少年サッカー大会等を行い、大会前には参加者でゴミ拾いを行っている。



【出典：川にゴミを捨てないようにしましょう。
私たちの雲出川を大切に。三重河川国道事務所】